茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（１）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （２）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （３）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○（何を学ぶか）　　実社会の中で必要な国語の知識や技能を学び、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高める。 ○（どのように学ぶのか）　言語活動や他者との話し合いを通じて、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○（何ができるようになるのか）　国語で的確に理解し効果的に表現することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
現代の国語	2	全日制・普通科・１学年	「新　現代の国語」（三省堂）
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）　実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 （２）　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）　言葉が持つ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
4月 1週 1日	1．導入 「言葉と声で表そう」	B書くこと	1	①　知識・技能 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 写真を見て想像力をはたらかせ、石仏がなんと言っているのか、「せりふ」を考える。 2 気持ちがそれぞれ伝わるように言い方を考え、実際に声に出す。 3 二人組やグループで、自然なやりとりになる言い方を見つける。	気持ちが伝わるような言い方や自然なやりとりになるような言い方をペアワークで見つけていく。	「言葉と声で表そう」 英語コミュニケーションⅠ（５）ア「気持ちなどを論理性に注意して文章に書いて伝える」との関連
				②　思考・判断・表現 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。（Ｂ(1)イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
5月 4週 2日	2．分かり合うために 「日本語を大切にする理由を考える」 「届く言葉、届かない言葉」 「ひとりではないということ」 「聞く力」	C読むこと	8	①　知識・技能 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア） 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）ウ） 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。（（２）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 「国語に関する世論調査」によると、相手との伝え合い（コミュニケーション）では何が重視されているか考える。 2 相手との伝え合い（コミュニケーション）の中で自分が重視していることは何か、考える。 3 考えたことをまわりの人と話し合う。 1 文章を読み、概要を把握する。 2 三つの事例を中心に三段落に分ける。 3 主張と事例の関係を捉え直す。 1 二つの文章を読み、それぞれの内容を要約する。 2 二人の筆者のコミュニケーションに対する考え方の特徴を指摘する。	異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に書き換えたりする。	「日本語を大切にする理由を考える」 「届く言葉、届かない言葉」（鷲田清一） 「ひとりではないということ」（星野源） 「聞く力」（阿川佐和子） 英語コミュニケーションⅠ（２）イ「概要や要点を目的に応じて捉えることができる」との関連
				②　思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。（Ｃ（１）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
6月 4週 2日	3．確かな情報を伝えるために 「情報はつくられる」 「ひとまず、信じない」 「情報を編集し、的確に発表する―パブリックスピーチ」	A話すこと・聞くこと	8	①　知識・技能 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し使うこと。（（１）イ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 教科書40ページの写真を見て、何の写真かを考え、まわりの人と意見交換する。 2 「情報はつくられる」を読み、「情報はつくられる」とはどういうことか、説明する。 1 文章を読み、概要を把握する。 2 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明する。 3 情報と適切につきあう方法について話し合う。 1 情報を適切に扱うにはどうすればよいかについて、「情報はつくられる」「ひとまず、信じない」なども参考にしながら考える。 2 自分で調べた資料を加えて考えをまとめる。 3 まとめた自分の考えを3分間で発表する。	自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	「情報はつくられる」 「ひとまず、信じない」（押井守） 「情報を編集し、的確に発表する―パブリックスピーチ」 情報Ⅰ（１）ア（ウ）「情報技術が人や社会に果たす役割や及ぼす影響について理解すること」との関連 英語コミュニケーションⅠ（４）イ「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝える」との関連
				②　思考・判断・表現 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫すること。（Ａ（１）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

7月 4週 2日	4．情報を生かすために 「人が死なない防災」 「減災学をつくる」 「評価した情報をまとめる一報告書」	B書くこと	8	①　知識・技能 　実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（1）エ）	**・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc)** **・確認テストの点数評価(abc)** **・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)**	1 文章を読み、概要を把握する。 2「正常化の偏見」と「認知不協和」について、自分の体験をもとに説明する。 3 筆者の考える、災害情報が避難に結びつかない理由を整理する。 4「『逃げる住民』をどうやってつくるのか」という筆者の問いかけに対するあなたの考えを提案する。	調べたことを整理して、報告書や説明資料などにまとめる。	「人が死なない防災」（片田敏孝） 「減災学をつくる」（矢守克也） 「評価した情報をまとめる一報告書」
				②　思考・判断・表現 　目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。（B（1）ア）	**・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc)** **・週末課題（レポート等）の分析(abc)** **・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)**	1 文章を読み、概要を把握する。 2 減災のためのツールをつくる時に最も大切なことは何か、筆者の考えを説明する。 3 筆者の考えるハザードマップの問題点を、整理する。 1 2種類のハザードマップを比べ、気づいた点をメモする。（適宜「人が死なない防災」「減災学をつくる」における筆者の主張を確かめさせる。）		情報Ⅰ（1）イ（ア）「情報やメディアの特性を踏まえ、問題を発見・解決する方法を身に付ける」との関連
				③　主体的に学習に取り組む態度 　目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討することに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	**・振り返りカードの記入分析(abc)** **・学習の取り組みの観察(abc)** **・週末課題の提出状況の点検(abc)**	2 ハザードマップにタイムライン（防災行動計画）を加えたものが新たに提案されたことで、見た人々の避難に対する意識はどう変化するか、調べる。 3「学習活動のヒント」を参考に報告書（またはその下書き）を書く。		英語コミュニケーションⅠ（5）ア「気持ちなどを論理性に注意して文章に書いて伝える」との関連
9月 4週 2日	5．よりよい読み手になるために 「読むことのレッスン」 「水の東西」 「コインは円形か」	C読むこと	8	①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文章の中で使うこと。（（1）ウ） 　実社会において理解したり表現したりするために語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し，話や文章の中で使うことを通して，語感を磨き語彙を豊かにすること。（（1）エ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を読み、概要を把握する。 2 事例を比較して述べる方法の、長所と短所について考える。 1 この文章で筆者が、何と何を、どのように比較しているかに注意して読む。 2 それぞれの部分で、筆者の主張がどのような事実に基づいているかを整理・分析する。	論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、引用や要約などをしながら論述したり批評したりする。	「読むことのレッスン」（飯間浩明） 「水の東西」（山崎正和） 「コインは円形か」（佐藤信夫） 英語コミュニケーションⅠ（2）イ「概要や要点を目的に応じて捉えることができる」との関連 数学Ⅰ4（イ）イ「目的に応じて複数の種類のデータを収集」「分析を行い，データの傾向を把握」との関連
				②　思考・判断・表現 　目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。（C（1）イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章中から「問題」「結論」「理由」の要素を読み取り、筆者の主張をつかむ。 3 筆者の示す「理由」は、どのような事例に支えられているか、まとめる。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
10月 4週 2日	6．場に応じて伝えるために 「中身当てクイズ」 「読み比べる　―海ガメの無念」 「構成や展開を意識して発表する　―プレゼンテーション」	A話すこと・聞くこと	8	①　知識・技能 　話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。（（1）イ） 　実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすとともに，語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（1）エ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1「中身当てクイズ」の概要を確認する。 2 各自でクイズの答えを考える。 3 グループやクラスでクイズの答えとその根拠を交流する。 1 AとBの文章を読み比べ、それぞれの文章の伝えたいことはどんなことか、各自で考える。 2 それぞれの文章の特徴を、構成と表現に着目して比較して表などにまとめ、グループなどで報告し合う。	報告や連絡、案内などのために、資料に基づいて必要な事柄を話したり、それらを聞いて、質問したり批評したりする。 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	「中身当てクイズ」（佐藤雅彦） 「読み比べる　―海ガメの無念」 「構成や展開を意識して発表する―プレゼンテーション」 英語コミュニケーションⅠ（4）イ「気持ちなどを論理性に注意し話して伝える」との関連 情報Ⅰ（2）イ（イ）「コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える」との関連
				②　思考・判断・表現 　論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。（A（1）エ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)	1 聞き手を意識して、五枚のフリップを使った方法を確認する。 2 教科書の「学習活動2」にある問題などを参考にしてテーマを設定し、プレゼンテーションのフリップと発表原稿を作成する。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

１１月 ４週 ２日	７．説得力を高めるために 「『まるごとのあなた』を」 「小さな哲学者」 「情報を整理して伝える　―『説明文』」	B書くこと	8	①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）ウ） 　文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。（（１）オ） 　引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。（（２）オ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 本文を読み、概要を把握する。 2 本文をもとに筆者の体験の意義をまとめる。 3 本文中の表現が意味する内容を明らかにして、タイトルに込められた筆者の考えを読み取る。 1 本文を読み、概要を把握する。 2 筆者の伝えたかったことは何か、まとめる。 3 「『まるごとのあなた』を」と読み比べ、表現上の特色を指摘する。 1 自分が経験したこと（思い出）をエピソードとして用いた文章などを読み、その効果を分析する。 2 「思い出の〇〇」と題して、「説明文」を書く。 3 まとめた「説明文」を読み合い、よりよく伝わるようにするためのアドバイスをし合う。	読み手が必要とする情報に応じて手順書や紹介文などを書いたり、書式を踏まえて案内文や通知文などを書いたりする。	「『まるごとのあなた』を」（伊藤亜紗） 「小さな哲学者」（中村安希） 「情報を整理して伝える　―『説明文』」 英語コミュニケーションⅠ（５）ア「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章に書いて伝える」との関連
				②　思考・判断・表現 　読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。（Ｂ（１）イ） 　自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。（Ｂ（１）ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
１２月 ４週 ２日	８．考えを共有していくために 「最短ルートは店の中」 「記憶の解凍」 「多様な意見に触れる―パネルディスカッション」	A話すこと・聞くこと	7	①　知識・技能 　比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。（（１）カ） 　推論の仕方を理解し使うこと。（（２）ウ） 　引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。（（２）オ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 教科書164ページの図の地点Ａからｂに最も早くたどり着くにはどのような道順で行けばよいか、隣の人に説明する。 2 本文中の表現を手がかりに筆者の考えをまとめる。 1 本文を読み、概要を把握する。 2 「記憶の解凍」とはどういうことか、整理する。 3 本文からわかるＡＩの不完全性をまとめる。 1 さまざまな意見を出し合う話し合いの一つとしてのパネルディスカッションの方法について知る。 2 「パネルディスカッションの例」にあるパネラーの立場で、「最短ルートは店の中」「記憶の解凍」の筆者の伝え方を評価する。 3 「パネルディスカッションの例」にある手順を参考に、司会者となってさまざまな意見を出し合う話し合いを行う。	話合いの目的に応じて結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論を、他の議論や討論の記録などを参考にする。 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。	「最短ルートは店の中」（菅俊一） 「記憶の解凍」（渡邉英徳） 「多様な意見に触れる　―パネルディスカッション」
				②　思考・判断・表現 　論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。（Ａ（１）エ） 　論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。（Ａ（１）オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使ったり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
１月 ４週 ２日	９．よりよい書き手になるために 「ありのままの世界は見えない」 「ものとことば」 「情報を活用して説得的に書く　―小論文」 「書いた文章を批評し合う　―推敲」	B書くこと	7	①　知識・技能 　文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。（（１）オ） 　比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。（（１）カ） 　推論の仕方を理解し使うこと。（（２）ウ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 教科書192ページの絵について隣の人と説明し合い、二通りの見方があることを認識する。 2 筆者が事例と主張をどのように関係づけているかに注意して二つの教材文を読む。 3 筆者の主張を、事例をもとに整理・分析し、共通しているテーマを指摘する。 4 テーマに対する筆者の視点、事例の用い方、文章構成や表現の特徴などの観点を設定して比較し、類似点や相違点をまとめる。 1 共通するテーマについて書かれた複数の文章から考えたことを、具体的な事例を用いて書く。 1 書いた文章を批評し合う。	論理的な文章や実用的な文章を読み、本文や資料を引用しながら、自分の意見や考えを論述する。	「ありのままの世界は見えない」〈田中真知〉 「ものとことば」（鈴木孝夫） 「情報を活用して説得的に書く　―小論文」 「書いた文章を批評し合う　―推敲」 英語コミュニケーションⅠ（５）ア「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章に書いて伝える」との関連
				②　思考・判断・表現 　目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。（Ｂ（１）ア） 　目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。（Ｂ（１）エ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
２月 ４週 ２日	１０．まとめ 「言葉で世界を豊かに」	B書くこと	7	①　知識・技能 　言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 教科書220～221ページのイラストを見て、感じたことや考えたことをメモする。 2 イラストにタイトルとコピーをつける。 3 感じたことや考えたことをまわりの人と交流し、タイトルやコピーについてコメントし合う。	広告を各自取り上げ、どのような要素によってどのようなイメージを抱かせているのか分析し、意見文に論述する。	「言葉で世界を豊かに」 情報Ⅰ（１）イ（ウ）「情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察すること」との関連
				②　思考・判断・表現 　読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。（Ｂ（１）イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解したり、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

領域ごとの授業時数の導入と計画	話すこと・聞くこと	23
	書くこと	31
	読むこと	16
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（１）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （２）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （３）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○実社会の中で必要な国語の知識や技能を学び、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、伝え合う力を高める。 ○言語活動や他者との話し合いを通じて、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 ○国語で的確に理解し効果的に表現することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
言語文化	2	全日制・普通科・１学年	「新　言語文化」（三省堂）

科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期 月 週	単元名	領域	指導時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横断的な視点等
４月 １週 ２日	１．入門 「千年の時が与えてくれる安堵」	B読むこと	3	①　知識・技能 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を読み、概要を把握する。 2 文章を三つに分け、小見出しをつける。 3 筆者が『枕草子』から読みとった、現代にも通じるテーマについて、具体的に説明する。 4 文章の題名がもつ意味について考える。 5 文章をふまえ、中学校までの古典の学習を振り返り、気づいたことや考えたことを意見交換し、高校での古典学習への意識づけを図る。 6 「言葉の響き」を音読し、歴史的仮名遣いにふれる。	これまでの古典学習について気づいたことや考えたことをグループで意見交換し、成果を発表したりレポートにまとめたりする。	「千年の時が与えてくれる安堵」（小川洋子） 英語コミュニケーションⅠ目標（２）イ「概要や要点を目的に応じて捉えることができる」との関連
				②　思考・判断・表現 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。（B（１）イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
５月 ４週 ２日	２．読書は生きる力 ―読書の意義について考える 「枕草子　春はあけぼの／ありがたきもの」 「故事二編　虎の威を借る／朝三暮四」 「ゴール」	B読むこと	9	①　知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）ウ） 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。（（１）エ） 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。（（２）カ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 「春はあけぼの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 筆者が「をかし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 3 「ありがたきもの」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 4 筆者が「ありがたし」として捉えている事柄やその述べ方の共通点、筆者独自のものの見方について考える。 5 身のまわりの物事から「をかし」「ありがたし」と感じることを探し、文章にまとめる。 1 「虎の威を借る」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる 3 「朝三暮四」を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。	登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことをグループで話し合い、その成果を発表する。 故事成語がどのような故事が元になっているかを調べ、その成果をレポートにまとめる。	「枕草子　春はあけぼの／ありがたきもの」（清少納言） 「故事二編　虎の威を借る／朝三暮四」 「ゴール」（三崎亜記） 英語コミュニケーションⅠ目標（４）イ「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝える」との関連
				②　思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。（B（１）ア） 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。（B（１）イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			

	「ゴール」			③　主体的に学習に取り組む態度 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)	4 この話がどのようなことを意味しているか考え、まとめる。 5 二編の故事から生まれた成語の用法について話し合う。 1 文章を通読し、概要を把握する。 2 登場人物の言動から感じられる印象を書きとめる。 3 文章の結末について考えをまとめる。 4 登場人物の人物像や文章の結末について、考えたことを話し合う。		
6月 1週 2日	春を切り抜く 「フォトレポートに表す」	A書くこと	3	①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）イ） 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）ウ） 　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。（（２）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 春に関する言葉や風物詩、伝統行事やイベントなどの題材を取り上げて調べる。 4 調べていく中で、初めて知ったことや伝えたいと思ったことを書きとめる。 5 題材についての写真を集める。 6 構成や描写を工夫しながら，フォトレポートを作る。	本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。	「フォトレポートに表す」（坪内稔典ほか） 外国語科　目標（３）「外国語の背景にある文化に対する理解を深め」ることとの関連 情報Ⅰ（２）イ（イ）「コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。（Ａ（１）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
6～7月 4週 2日	3．物語は無限に展開する　―構成や展開について考える 「沙石集　児の飴食ひたること」 「説苑　景公之馬」 「羅生門」	B読むこと	9	①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）イ） 　本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。（（１）オ） 　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。（（２）ウ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を音読し、傍訳を参考にしながら大意を捉える。 2 「坊主」の発言に着目し、人物設定を捉える。 3 「児」の考えに着目し、人物設定を捉える。 4 登場人物の人物像について、人物設定を整理したうえで、考えたことを話し合う。 1 文章を音読し、訳文を参考にしながら大意を捉える。 2 「晏子」の発言や行動の意図を考える。 3 「晏子」の発言の内容を整理する。 4 「景公」が「晏子」の発言から何を読み取ったか、まとめる。 5 文章の内容を完結にまとめ、発表する。 1 文章を通読し、概要を把握する。 2 場面設定を確認する。 3 「下人」の心情の変化を確認する。 4 「老婆」の発言の内容をまとめる。 5 「下人」の考えの変化と、そのきっかけになったできごとについて考え、話し合う。	作品の内容や形式について、グループで批評したり討論したりし、その成果をレポートにまとめる。	「沙石集　児の飴食ひたること」（無住） 「説苑　景公之馬」（劉向） 「羅生門」（芥川龍之介） 英語コミュニケーションⅠ目標（２）イ「概要や要点を目的に応じて捉えることができる」との関連
				②　思考・判断・表現 　文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。（Ｂ（１）ア） 　文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。（Ｂ（１）ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
				①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）イ） 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）ウ） 　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。（（２）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 夏に関する素材を探して調べたり観察したりする 4 素材について感じたことや思ったこと、発見したことなどを書きとめる。 5 表現を工夫して、短歌や俳	本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。	「短歌・俳句に表す」（河野裕子ほか） 英語コミュニケーションⅠ（５）イ目標「日常的な話題について」「情報や考え，気持ちなどを論理性に

7月 1週 2日	夏を切り抜く 「短歌・俳句に表す」	A書くこと	3	②　思考・判断・表現 　自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にすること。（A（1）ア）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)	句を作る。		注意して文章を書いて伝えることができるようにする」こととの関連 情報Ⅰ（2）イ（イ）「コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える」こととの関連
				③　主体的に学習に取り組む態度 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
9月 4週 2日	4．人の心は万華鏡 ―人物像や心情について考える 「オムライス」 「十八史略　鶏口牛後／先従隗始」 「平家物語　木曾の最期」	B読むこと	9	①　知識・技能 　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。（（1）エ） 　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。（（2）ウ） 　言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。（（2）オ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 特徴的な表現をもとにしながら、「男の子」の心情を説明し、心情の変化を捉える。 3 「本」を拾ったことをきっかけに、「男の子」がどのように変化したかを捉える。 4 語り手を変えて文章の一部を書きかえる。 1 「鶏口牛後」を音読し、大意を捉える。 2 「鶏口」「牛後」が何をたとえているか、説明する。 3 「蘇秦」は比喩を用いて、何を述べたかったか、まとめる。 4 「先従隗始」を音読し、大意を捉える。 5 「死馬」「生者」が何をたとえているか、説明する。 6 「郭隗」の比喩を用いた発言の巧みさについてまとめる。 7 登場人物が比喩表現を使用した意図を考える。 1 文章を音読し、大意を捉える。 2 文章中の表現から、「義仲」の各場面における心情を捉える。 3 文章中の表現から、「兼平」の心情の変化を捉える。 4 「兼平」の発言を比較し、「兼平」の心情や「義仲」への思いについて説明する。 5 「義仲」「兼平」の人物像について意見を交流する。	和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする。	「オムライス」 「十八史略　鶏口牛後／先従隗始」 「平家物語　木曾の最期」 英語コミュニケーションⅠ目標（5）イ「日常的な話題について」「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。（B（1）イ） 　文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。（B（1）ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
10月 1週 2日	秋を切り抜く 「詩に表す」	B読むこと	3	①　知識・技能 　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。（（1）エ） 　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。（（2）ウ） 　言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。（（2）オ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 秋に関する体験や思い、発見、感じたことなどを書きとめる。 4 効果的に伝わる語句や表現技法を用いながら、詩を作る。	和歌や俳句などを読み、書き換えたり外国語に訳したりすることなどを通して互いの解釈の違いについて話し合ったり、テーマを立ててまとめたりする。	「詩に表す」 （八木重吉ほか） 英語コミュニケーションⅠ内容（3）ウ（ア）「読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。（B（1）イ） 　文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。（B（1）ウ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			

				③　主体的に学習に取り組む態度 　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解したり、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
１１月 ４週 ２日	５．共感は海を越える―言語文化の交流について考える 「漢詩四編」 「待ち伏せ」 「インタビュー　『人間』を描きたい」	B読むこと	9	①　知識・技能 　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア） 　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。（（２）ア） 　時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。（（２）エ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 漢詩を音読する。 2 四編の漢詩の中から、印象に残った一行を選び、その理由を説明する。 3 それぞれの漢詩の心情を、漢詩が作られた時代や作者の背景をふまえて捉える。 4 四編の漢詩の中から一編選び、感想や印象を文章にまとめる。	我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする。	「漢詩四編」 （李白・杜牧・杜甫・白居易） 「待ち伏せ」 （ティム・オブライエン） 「インタビュー　『人間』を描きたい」（野村萬斎、高橋克明） 英語コミュニケーションⅠ内容（３）ウ（ア）「読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。（Ｂ（１）エ） 　作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。（Ｂ（１）オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 文章中の表現をもとに、「いま」の「私」の心情について、考えをまとめる。 3 文章中の表現をもとに、「私」の心情の変化を捉え、説明する。 4 「私」が戦争の話を書き続けている理由について、考えをまとめて話し合う。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)	1文章を通読し、概要を把握する。 2 野村萬斎が海外公演を行う意図や、狂言を通して海外で伝えたいことについて考える。 3 野村萬斎が「解脱」という言葉を通して、どのようなことを述べようとしているか考える。 4 聞き手が、どのような聞き方の工夫をしているか、指摘する。 5 日本の伝統的な言語芸能が海外でどのような評価を受けているか、新聞記事を参考にしながら話し合う。		
１２月 ４週 ２日	６．文学は主張する―世界に対する認識のあり方について考える 「徒然草　神無月のころ／家居のつきづきしく」 「なめとこ山の熊」 「論語八章」	B読むこと	9	①　知識・技能 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）ウ） 　文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。（（１）エ） 　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。（（２）ウ） 　時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。（（２）エ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 「神無月のころ」を音読し、大意を捉える。 2 「柑子の木」を見た筆者の思いを捉え、筆者の考え方を読み取る。 3 「家居のつきづきしく」を音読し、大意を捉える。 4 「後徳大寺大臣」の例に対する「西行」の考えと比較しながら、筆者のものの見方について考える。 5 文章から家のつくりを読み取り、図に描く。 6 「神無月のころ」と「家居のつきづきしく」を読み比べて、共通点を探し、本文を引用しながら文章にまとめる。	古典から受け継がれてきた詩歌や芸能の題材、内容、表現の技法などについて調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりする。	「徒然草　神無月のころ／家居のつきづきしく」（兼好法師） 「なめとこ山の熊」（宮沢賢治） 「論語八章」 英語コミュニケーションⅠ内容（３）ウ（ア）「読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。（Ｂ（１）ウ） 　作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。（Ｂ（１）オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)	1 文章を通読し、概要を把握する。 2 「小十郎」が出会った「熊」たちとの関わりや思いについて、それぞれ整理する。 3 「荒物屋の主人」と「小十郎」の関係性を整理する。 4 「小十郎」の死後、「熊」との関係がどのように変化したか、話し合う。 5 前項の話し合いをふまえ、自分の考えをまとめる。		
				③　主体的に学習に取り組む態度 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)	1 八章の論語を音読し、大意を捉える。 2 好きな章を選び、主張されていることを自分の言葉で言いかえる。 3 前項の作業をしていく中で、考えたことを話し合う。 4 好きな章を選び、その章が自分とどのように関わるか考え、自由に表現する。		

1月 1週 2日	冬を切り抜く 「随筆に表す」	A書くこと	4	①　知識・技能 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。（（１）イ） 　我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（（１）ウ） 　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。（（２）ア）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 作品を読み、その中から一つ選んで、書き写したり音読したりする。 2 その作品を選んだ理由や、感想を交流する。 3 随筆のテーマとして、自分の体験や見聞から、印象に残っているできごとを取り上げる。 4 どのような視点や切り口からそのテーマを取り上げるか考える。 5 テーマを吟味して、自分の見方や考え方、感じ方を見つめながら、表現内容を考える。 6 その場にいなかった人にも様子や物事の経緯が伝わるように注意しながら、随筆を書く。 7 自分の思いや考えが効果的に伝わる文章になっているかなどに注意しながら、文章を推敲する。	本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする。	「随筆に表す」（青木玉ほか） 英語コミュニケーションⅠ（５）イ目標「日常的な話題について」「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする」ことの関連
				②　思考・判断・表現 　自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。（Ａ（１）イ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使ったり、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			
1～2月 4週 2日	7．言葉を紡ぎ出す ―言語文化と自分とのつながりについて考える 「サーカス」 「コーヒーカップ」 「神様」 「夢十夜　第一夜」 「『おくのほそ道』を歩く」 「月の誤訳」 「土佐日記　門出」 「雑説」	B読むこと	9	①　知識・技能 　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。（（１）ア） 　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。（（２）ア） 　古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること（（２）イ） 　我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。（（２）カ）	・授業中の発言や課題の完成度の点検(abc) ・確認テストの点数評価(abc) ・定期考査（①を測る問題）の点数評価(abc)	1 探究するテーマと作品の組み合わせを決める。 ＊テーマと作品は、単独で考えてもよい。 ＊作品は、この単元以外で学んだ作品や、自分の関心のある作品でもよい。 2 活動の方法を決める。 3 選んだテーマ、作品を用いて、活動を行う。	異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。	「サーカス」（中原中也） 「コーヒーカップ」（三角みづ紀） 「神様」（川上弘美） 「夢十夜　第一夜」（夏目漱石） 「『おくのほそ道』を歩く」（森本哲郎） 「月の誤訳」（多和田葉子） 「土佐日記　門出」（紀貫之） 「雑説」（韓愈） 英語コミュニケーションⅠ目標（４）イ「情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝える」との関連 情報Ⅰ（２）イ（イ）「コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える」こととの関連
				②　思考・判断・表現 　文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。（Ｂ（１）ウ） 　作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。（Ｂ（１）エ） 　作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。（Ｂ（１）オ）	・対話的活動（ペアワーク・グループワーク等）の観察(abc) ・週末課題（レポート等）の分析(abc) ・定期考査（②を測る問題）の点数評価(abc)			
				③　主体的に学習に取り組む態度 　言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解したり、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。	・振り返りカードの記入分析(abc) ・学習の取り組みの観察(abc) ・週末課題の提出状況の点検(abc)			

領域ごとの指導時間数の計		
	話すこと・聞くこと	
	書くこと	10
	読むこと	60
指導時間数の合計		70

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（地歴公民科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
地理総合	2	全日制普通科1学年	地理総合　改訂版（山川出版社）　基本地図帳　改訂版（山川出版社）

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 日	第1章　地図とGISの活用 1．球面上の世界 2．地図とＧＩＳ 3．国内の領域と国際関係 4．人・モノ・情報のつながり		①　知識・技能 ・地球上での位置、太陽高度の変化、緯度経度のしくみ、時差の計算について理解する。 ・世界地図の主な図法と利用を理解する。 ・国家の領域に関する知識を身につけ、日本の領土問題の歴史的背景と空間的広がりを捉える。 ・人・モノ・情報の結びつきをを捉える。 ・統計資料から分布や変化を捉える。 ・世界地図を図法を用途に応じて活用する。	白地図確認、 小テスト	・地球上の位置情報の基礎として，球体としての地球，緯度・経度の基本的なしくみ，地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え，日常生活における時差計算の技能を身につけ，球面として成り立つ世界認識をもつ。・図法によって異なる世界地図の特色を捉え，スケール，視点，図法などを変化させながら，世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために，国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら，日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	地学基礎（地球に関する学びの）
			②　思考・判断・表現 ・球体としての地球の観点から、図を活用して地球上の位置や時差のしくみを説明する。 ・日本の位置と領域について世界的視野から捉え、日本の領域をめぐる問題を考察する。 ・複数の統計地図を結びつけ、世界の結びつきや偏りについて考察したことを説明する。 ・地図で示す主題によって統計地図の表現方法の差異を考察する。 ・身近な地図の表現方法に違いを捉える。 ・紙の地形図と電子地図の活用法を考察する。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・球体としての地球の把握に向け意欲的に探究し、作業や考察に取り組む。 ・日本の領域に関する問題について、意欲的に探究し、海洋資源の問題を考える。 ・統計地図の作成に意欲的に取り組む。 ・身の回りの地図に興味を持ち、意欲的に地図の知識を活用する。 ・GISの作業に意欲的に取り組み、GISで作成した地図から地域の特徴を分析する。	自己評価			
5月 4週 日	第2章　地理的環境の特色 1．地形と生活文化 2．気候と生活文化		①　知識・技能 ・地形についての知識を身につけ、世界的視野から地形の分布の特徴を捉える。 ・地形図から等高線や地図記号などを判読し、地形の特徴や土地利用を捉える。 ・大気の大循環と海洋に起因した大気のしくみを理解する。 ・各気候の分布の特徴を理解する。	白地図確認、 小テスト	・世界の大地形の広がりがプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し，変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し，地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川，海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり，およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について，写真や地形図などの資料を通して考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	地学基礎との関連
			②　思考・判断・表現 ・世界の地形をプレートテクトニクスと関連づけ、世界の地形配置と比較しながら考察する。 ・生活している地域の地形の特徴を、写真、地形図から捉え、人間生活との関連を考察する。 ・世界規模の大気のしくみが人間生活に影響していることを資料をもとに考察する。 気候区分図を用いて気候分布の規則性を捉える。 ・写真などの資料をもとに、各気候により景観が異なること、農業や生活の影響を考察する。	発表 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組む。 ・地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉える。地形図や分布図、写真、模式図の読み取りに意欲的に取り組む。 ・地形図を用いた作業に意欲的に取り組み、地形と人間生活とのつながりを捉える。 ・雨温図や写真の判読を通じて、世界各地の気候や生活文化の対応を意欲的に探究する。	相互評価			

6月 4週 日	第2章　地理的環境の特色 3．産業と生活文化		①　知識・技能 ・世界の視野から産業の特徴と分布を捉える。 ・主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の産業の分布と発達を捉える。 ・雨温図や写真から情報を抽出し、各気候と植生の対応や、それらが関連した人々の生活の特徴を読み取り、整理する。 ②　思考・判断・表現 ・自然環境が産業の形成に関わっていることを資料をもとに考察する。 ・世界の産業の変化をグローバル化の観点から考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・身近な商品が世界規模の産業構造の中に位置づけられることを意欲的に探究する。	小テスト 定期考査 白地図課題 自己評価	・グローバル化が進む世界において，国家間の協調や不均衡を理解するために，世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信，貿易・物流，観光の視点から，人やもの，情報，資本・サービスの移動のようすについて，統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために，資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	政治経済の経済分野との関連
7月 3週 日	第2章　地理的環境の特色 4．宗教・言語と生活文化		①　知識・技能 ・世界の多様性を理解し、異文化を尊重する姿勢が重要であることを理解する。 ・主題図や写真、グラフ、統計資料から世界の宗教の分布と特徴を捉える。 ②　思考・判断・表現 ・生活と宗教の関わりについて地域性や歴史的背景をもとに捉え、資料をもとに考察する。 ・世界的な難民と移民の問題を地図などの資料から捉え、考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・世界の宗教の特徴をまとめ、身近な地域の外国人の受け入れなどと関連させて追究する。 ・難民と移民の問題構造を調べ、難民問題の解決策を意欲的に探究する。	小テスト 発表 レポート 相互評価	・世界でみられる生活文化の多様性について，宗教，言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族，移民，難民の問題を捉えながら，マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し，自他の文化を尊重する社会の実現を考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	歴史総合との関連
9月 4週 日	第3章　世界各地の生活文化 1．経済発展と生活文化の変化～東アジア 2．宗教の多様性と生活文化～東南アジア 3．モンスーンの恵みと生活文化～南アジア 4．イスラーム社会の多様性と生活文化～イスラーム圏		①　知識・技能 ・図版や写真から社会経済システムの特徴と変化を捉え、課題を整理する。 ②　思考・判断・表現 ・中国や韓国の工業の発達に伴う人口や環境の影響を主題図などの資料をもとに考察する。 ・ASEAN諸国の統合生活文化の変化を考察する。 ・地域紛争の背景としての民族や宗教・宗派の違いを考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの中国や韓国の商品を意欲的に調べ、中国や韓国の経済成長と課題を探究する。 ・多様な言語・宗教からなるASEANにおける経済成長と経済格差を意欲的に探究する。 ・イスラーム圏の生活文化を意欲的に調べ、圏内の共通点や相違点を探究する。	小テスト 発表 レポート 自己評価	東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。・地形，気候などの自然環境を捉えながら，水資源と宗教，農業，文化や産業の成立の関わりを主題図やグラフなどの資料を通じて理解する。・特に世界や日本，中国，韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程ついて理解し，経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	歴史総合との関連
１０月 5週 日	第3章　世界各地の生活文化 5．多様な自然の恵みと生活文化～アフリカ 6．経済統合による生活文化の変化～EU 7．寒冷地の開発と生活文化～ロシア		①　知識・技能①　知識・技能 ・図版や写真から多様な自然環境の特徴を捉え、自然環境と生活文化との対応と地域の変化を捉える。 ・生活文化を地形や気候と関連づけ、農業と食文化の関連について理解する。 ②　思考・判断・表現 ・地形、気候、歴史的背景と生活文化の多様性を考察する。 ・経済成長による生活文化の変化と気候変動などをふまえ、アフリカの課題について捉え、課題やその対策を説明する。地形、気候、歴史的背景と生活文化の多様性を考察する。 ・寒冷な気候と生活文化との関連を捉え、開発が自然環境に与えた影響と課題を考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・農業、工業の特徴を捉えるとともに、気候や地域統合の広がりなど他の要素との関連に関心をもって意欲的に取り組む。 ・言語・宗教の多様性と産業とを関連させながら地域統合と課題を意欲的に探究する。	定期考査 小テスト 発表 レポート 相互評価	・モノカルチャー経済の構造は残りながらも，多様性に富む自然環境や食文化をもち，資源開発などを背景とした近年の経済成長について主題図や写真などの資料を通じて理解する。・経済成長や開発などを背景としたアフリカの課題を自然環境と生活文化の関わりから考える。・地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。ロシアを例に主題図やグラフなどの資料をもとに気候に制約を受ける農業など，自然環境と人々の生活との対応を理解する。 ・豊富な鉱物資源を背景にしたヨーロッパ諸国や日本など東アジアとの結びつきや近年の開発による自然環境への影響を考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	歴史総合との関連

１１月 ４週 日	第3章　世界各地の生活文化 ８．グローバル化による生活文化の変化～アングロアメリカ ９．土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ 10．植民と移民による生活文化の形成～オセアニア		①　知識・技能 ・図版や写真からアメリカの産業を捉えながら、世界の生活文化や経済への影響を捉える。 ②　思考・判断・表現 ・図版と写真から、自然環境と生活文化の共通性と異質性を開発の歴史から考察する。 ・資源を背景とした経済発展と経済格差の問題点を考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・２つの国を比較して開発の背景を捉え、植民と移民による産業の進展を意欲的に探究する。	小テスト 発表 レポート 自己評価	・企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。・アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。・鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え，その解決に向けた取り組みを考える。・開発に焦点を当て，オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し，主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え，両国の生活文化の違いを理解する。		歴史総合との関連
１２月 ３週 日	第4章　地球的課題と国際協力 １．地球環境問題 ２．資源・エネルギー問題 ３．人口問題 ４．食料問題 ５．居住・都市問題		①　知識・技能 ・SDGsの理念と目標を理解し、多面的、多角的に考察し、課題と必要な解決策を構想する。 ②　思考・判断・表現 ・SDGsの目標をふまえ、対策が他の課題におよぼす影響について考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・国際協力に関心を持ち、当該国の人の立場で意欲的に対策と影響を考えることがする。	小テスト 発表 レポート 相互評価	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに，人口問題の背景や問題点を整理する。 人口問題，食料問題について，主題図やグラフなどの資料を集め，グローバル，ローカルのそれぞれ異なる視点から対応策を構想する。・人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ，都市問題の解決策を考える。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	歴史総合との関連
１月 ３週 日	第5章　生活圏の諸課題 １．日本の自然環境と防災		①　知識・技能 ・インターネット上の電子地図などを活用し、防災対策を検討する技能を身につける。 ②　思考・判断・表現 ・防災に必要な地理情報を収集し、その資料をもとに回避行動を考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・意欲的に地理情報を収集し、避難行動を検討する。	定期考査 小テスト 発表 レポート 相互評価	・自然災害を与える要素があることを理解する。・風水害，火山，地震・津波，都市型の災害の具体的な事例について，新旧の地形図，ハザードマップ，気象情報，電子地図などを利用する技能とともに捉える。・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか，それに対する備えはどうすれば良いのか考え，居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	公共との関連
２月 ２週 日	第5章　生活圏の諸課題 １．日本の自然環境と防災		①　知識・技能 ・インターネット上の電子地図などを活用し、防災対策を検討する技能を身につける。 ②　思考・判断・表現 ・防災に必要な地理情報を収集し、その資料をもとに回避行動を考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・意欲的に地理情報を収集し、避難行動を検討する。	小テスト 発表 レポート 自己評価	・日本が抱える地域的な課題について，身近な地域を例に取り上げ，人口の少子高齢化，過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ，他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに，地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。	・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	公共との関連
３月 ２週 日	第5章　生活圏の諸課題 ２．生活圏の諸課題と地域調査		①　知識・技能 ・インターネット上の電子地図などを活用し、防災対策を検討する技能を身につける。 ②　思考・判断・表現 ・防災に必要な地理情報を収集し、その資料をもとに回避行動を考察する。 ③　主体的に学習に取り組む態度 ・主題図などの調査結果を根拠にして、意欲的に地域の課題解決に向けたまちづくりのプランを検討し、発表する。	小テスト 発表 レポート 相互評価		・ペアワークによる活動、グループ内レポート作成及び発表	公共との関連
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（地歴公民科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○近現代の世界史・日本史の基礎・基本的な事項を学ぶ ○各種の「問い」を活用することで，世界史と日本史を比較・関連づけて考察し、資料読解特集「Active」を利用し，通常授業→習得した知識を活用したアクティブラーニング型授業を展開する ○資料読解の技能や思考力を育成することができる

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
歴史総合	2	全日制普通科1学年	詳述歴史総合（実教出版）

科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4 月 3 週	歴史の扉第 １編　近代化と私たち 近代化と私たち 近代化への問い 第１章 近代化へ胎動 INTRODUCTION 17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出 １．ヨーロッパの海外進出と市民社会 ２．清の繁栄 ３．東アジア諸国間の貿易 ４．江戸時代の日本の対外政策 ACTIVE アジアの繁栄とヨーロッパ	6	①　知識・技能 歴史の叙述には，諸資料の検証と論理性などが求められることに気づかせる。18世紀のアジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②　思考・判断・表現 近代化にともなう18世紀の生活や社会・政治・経済の変容について考察し，問いを表現している。 ③　主体的に学習に取り組む態度 「歴史総合」を学ぶ意義や目的，歴史的な考察の方法やその特質について，主体的に理解を深めようとしている。	課題 授業の振り返り 確認テスト 課題、確認テスト 学習の取り組み 授業中の発言	歴史学習の動機付けと歴史学習の基本的な技能や学び方を身につけさる。18世紀のアジアや日本における生産と流通，アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易や経済の影響などを基に，アジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会の理解を深め，主題を設定し，アジア諸国とその他の地域の動向を比較し，関連付けて，18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴，アジア各地域間の関係，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し，表現できるようにする。	中学校までの歴史知識理解の確認のための生徒同士の話し合い。 分からないところを友だちや先生に質問する	アジア・西欧（地理総合）衣生活・住生活（家庭基礎）
5 月 4 週	第２章 欧米の市民革命と国民国家の形成 INTRODUCTION 17世紀以前のヨーロッパの主権国家体制 ６．イギリス産業革命 ７．アメリカ独立革命 ８．フランス革命とナポレオン STEP UP　国民国家の成立 STEP UPラテンアメリカの独立 ９．ウィーン体制 10．19世紀のイギリスとフランス 11．イタリア・ドイツの統一 12．東方問題と19世紀のロシア	8	①　知識・技能 18 世紀後半以降19世紀の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に，立憲体制と国民国家の形成を理解している。 ②　思考・判断・表現 産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して，主題を設定し，欧米諸国の動向を比較，相互に関連付けて，政治変革の特徴，国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ③　主体的に学習に取り組む態度 近代ヨーロッパの歴史の変化について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養い，我が国の歴史に対する愛情，他国の文化を尊重し、大切さについての自覚などを深める。	課題 授業の振り返り 確認テスト 課題、確認テスト 学習の取り組み 授業中の発言	産業革命と交通・通信手段の革新，工業化と世界史上の形成，18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に，立憲体制と国民国家の形成の理解をふかめ。 産業革命や国民国家の形成の背景や影響などに着目して，主題を設定し，欧米諸国の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，政治変革の特徴，国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。	分からないところを友だちや先生に質問する国民国家とは何か生徒同士で確認し合う。	西洋近代思想（公共）　化学と人間生活（化学基礎）
6 月 4 週	13．アメリカの発展と分裂 14．世界市場の形成 ACTIVE「大分岐」について考える 第３章アジアの変容と日本の近代化 15．イスラーム世界の改革と再編 16．南アジア・東南アジアの改革と再編 17．アヘン戦争の衝撃 18．ゆらぐ幕藩体制 19．開国	8	①　知識・技能 日本の開国から大日本帝国憲法の制定などを基に，18 世紀後半以降の欧米の市民革命の動向などと関連づけて，国民国家の形成を理解、アジアと欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 ②　思考・判断・表現 19 世紀後半以降の日本の政治動向や欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて，立憲体制と国民国家の形成を理解している。ヨーロッパ諸国の進出に対す各国の動向を考察表現している。 ③　主体的に学習に取り組む態度 19世紀半ばの歴史の変化にたいし，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決する態度を養い，多面的・多角的な考察や深い理解を通して自国や他国の文化を尊重する大切さについて自覚を深める。	課題 授業の振り返り 確認テスト 課題、確認テスト 学習の取り組み 授業中の発言	19 世紀後半以降の日本の政治動向や欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて，立憲体制と国民国家の形成を理解を深め。 ヨーロッパ諸国の進出に対す各国の動向を考察表現出来るようにする。	分からないところを友だちや先生に質問する	選挙制度と民主政治の課題（公共） 衣生活・住生活（家庭基礎）

7 月 3 週	20．幕末政局と社会変動 21．新政府の成立と諸改革　22．富国強兵と文明開化　ACTIVE 文明化と向き合う 東アジア諸国 23．近代的な国際関係と国境・領土の画定 24．自由民権運動の高まり STEP UP後発の国民国家・日本 STEP UP困民党事件 25．立憲国家の成立　ACTIVE 議場が語る立憲制	6	①　知識・技能 幕末政局から立憲国家まで成立まで理解しまとめることが出来る。	課題 授業の振り返り 確認テスト	幕末政局から立憲国家まで成立まで理解を深め、幕末政局から立憲国家まで成立まで協働的に考察し，適切に表現出来るようにする	分からないところを友だちや先生に質問する	日本社会の基本原理（公共）衣生活・住生活（家庭基礎）
			②　思考・判断・表現 幕末政局から立憲国家まで成立まで協働的に考察し，適切に表現している。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 幕末政局から立憲国家まで成立まで主体的に追究して，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	学習の取り組み 授業中の発言			
9 月 4 週	第４章帝国主義の時代 26．帝国主義と世界分割 27．帝国主義期の欧米諸国 28．条約改正 29．日清戦争 30．日露戦争から韓国併合へ31．日本の産業革命と社会問題　STEP UP 19世紀末のアジア間貿易 32．アジア諸民族の独立運動・立憲運動 ACTIVE　博覧会にみる近代　　近代化と現代的な諸課題	8	①　知識・技能 列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解している。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容の理解を深め。 ・帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し，相互に関連付け，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することが出来るようにする。	分からないところを友だちや先生に質問する	南北問題とその課題
			②　思考・判断・表現 帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して，主題を設定し，比較し，関連付け，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 19世紀末～20世紀初頭の世界の歴史のる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養い，自国、他国の文化を尊重し、大切さについての自覚などを深める。	学習の取り組み 授業中の発言			
10 月 4 週	第２編国際秩序の変化や大衆化と私たち 第５章第一次世界大戦と大衆社会 33.緊迫する国際関係 34.第一次世界大戦 35.ロシア革命とシベリア出兵 36.大戦景気と米騒動 37.ヴェルサイユ体制とワシントン体制 38.西アジア・南アジアの民族運動	8	①　知識・技能 国際関係の緊密化，アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭，植民地の独立，大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化や生活様式の変化等知識として身に付いている。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭やナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制の成立した過程について理解する。 ・ヨーロッパでの戦争がどのような背景で世界に広がり，展開していったかを考察し戦争が世界に拡大していく歴史的過程を考察し，表現することができる。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習の中で言語活動を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。	
			②　思考・判断・表現 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦の世界に対する影響，日本の参戦と影響などに着目し，主題を設定して日本と他の国の動向を比較したり表現している。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 1910～1920年代の歴史の変化に関わる諸事情について主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的に考察し日本人としての伝統文化を深める。	学習の取り組み 授業中の発言			
11 月 4 週	39.東アジア・東南アジアの民族運動 STEP UP大衆社会の成立 40.戦間期の欧米 41.ひろがる社会運動と普通選挙の実現 42.政党内閣の時代 ACTIVE 20世紀の女性と男性 第６章経済危機と第二次世界大戦 43.世界恐慌44.ファシズムの時代	8	①　知識・技能 世界恐慌・ファシズムの伸長・日本の対外政策などを基に，日本とその他の国や地域の動向と比較したり関連付けることで，国際協調体制の動揺について理解している。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・東アジアと東南アジアの民族運動の展開と日本との関わりを考察し，またこの時期の朝鮮・中国・東南アジアの動きと日本国内の動きと思想について考察する。 ・人々の大衆意識の変容を理解し，政党内閣の変遷と憲政常道の意義を考察する。 ・大衆社会について特徴を考察し，マス=メディアの発達が膨大な量の情報提供をもたらしせたことを理解する。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習の中で言語活動を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。	
			②　思考・判断・表現 各国の世界恐慌への対応の特徴や，国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 経済危機の背景や影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，日本とその他の地域の動向を比較したりすることにより，国際社会を深く理解しようとしている。	学習の取り組み 授業中の発言			
12 月 3 週	45.満州事変と軍部の台頭 46.日中戦争 ＡＣＴＩＶＥ　戦争をささえる社会 47.第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 48.戦争と民衆 49.敗戦 STEP UP ホロコースト STEP UP 沖縄戦 ACTIVE 戦争の記憶	6	①　知識・技能 満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策を理解し，その後の日中戦争，第二次世界大戦に至る過程を理解し，戦時中に求められた生活様式を知識として定着している。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・日本の軍部の台頭とドイツのナチス党の勢力拡大と，満州事変における日本軍の進路と満州国の建国の過程について理解する。また，軍部の台頭により日本国内の政治的軍事的変容についても考える。 ・20世紀の戦争において，人々は戦争協力をどのようにしてつくられていったのか，戦時中の生活様式とともに考察していく。また，ホロコーストが起こった要因をまとめていく。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習の中で言語活動を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。	
			②　思考・判断・表現 日本の軍部の台頭と日中戦争の長期化について，資料等を活用して考え，判断しドイツ・ソ連・イギリス・フランスの対応について多面的に考察している。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 第二次世界大戦の太平洋戦争は，日本も戦場の舞台となり，その悲惨な体験と影響について，主体的に追究して学習した内容を社会生活に活かそうとしている。	学習の取り組み 授業中の発言			

1 月 3 週	50.国際連合と戦後世界 51.戦後と占領の始まり 52.民主化と日本国憲法 53.冷戦の開始 54.朝鮮戦争と日本 STEP UP 国際平和への動き STEP UP 戦後補償 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	6	①　知識・技能 第二次世界大戦後，各国は戦争を防止するための国際経済体制を形成していったことに着目できている。また，写真や統計・資料を活用し多面的な考察ができている。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・第二次世界大戦後の人々はどのような世界を形成していったか大戦後のヨーロッパやアジア諸国との状況を踏まえながら考察する。 ・連合国の日本占領にはどのようなねらいがあったのか。その特徴に着目し敗戦国としての民衆生活の状況を考える。 ・日本の民主化政策により日本の社会に与えた影響や国際平和をめざす動きについて理解する。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習の中で言語活動を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。	
			②　思考・判断・表現 戦後の日本の民主化政策によって，女性の参政権が認められ，日本国憲法でも男女同権が規定されるが，女性の社会参加がこの頃は実現されなかったことを追究し表現しようとしている。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 アジアにおける冷戦構造と安全保障条約により，朝鮮戦争が勃発した要因を主体的に追究しようとしている。また，自衛隊の成立についても理解を深めている。	学習の取り組み 授業中の発言			
2 月 4 週	第３編グローバル化と私たち グローバル化への問い 第７章冷戦と脱植民地化 55.冷戦対立の推移 STEP UP　核実験と核戦争 56.植民地の独立と第三世界の出現 STEP UP　パレスティナ問題 57.米ソ両陣営の動揺 58.日本の国際社会復帰と高度経済成長 STEP UP　世界のなかの米軍基地と沖縄 ACTIVE 1968-「豊かな社会」でおこった「異議申し立て」 第８章多極化する世界 59.石油危機と世界経済 STEP UP 近現代史のなかのエネルギー 60.緊張緩和から冷戦の終結へ	8	①　知識・技能 冷戦と国際関係，人と資本の移動，高度情報通信，資源・エネルギー問題など多様な人々の共存に関する内容について，知識として着実に身に付けようとしている。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・グローバル化により冷戦と国際関係，人と資本の移動，高度情報通信，食料と人口問題，資源・エネルギー問題と地球環境問題，感染症，多様な人々の共存などにかかわっていることに着目する。 ・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国や冷戦下の地域紛争，先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理，日本の高度経済成長などをもとにして国際政治の変容を理解している。・日本の55年体制下の日本における欧米・アジア諸国との関係について推察し，日本の安全保障条約について反対する動きが拡大した利用について考察する。 ・1968年以降の高度経済成長の時代と現在の違いを主体的に追究し多角的多面的に考察していく。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習の中で言語活動を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。	「この世界の片隅に」（英語）
			②　思考・判断・表現 地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に大きく影響をもたらせたことに着目し，主題を設定し日本とその他の国との地域の動向を比較し，日本の高度経済成長の背景や影響について多面的・多角的に考察し，表現しようとしている。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 冷戦対立や第三世界の台頭，日本の高度経済成長や日本の沖縄の米軍基地問題，冷戦の緊張緩和などについて資料や写真・統計などを活用しながら国際政治と関連づけて理解し，主体的に追究して，学習したことを社会生活にも活かそうとしている。	学習の取り組み 授業中の発言			
3 月 3 週	61.地域協力の進展 STEP UP 人の移動の近現代史 62.日本の経済大国化 第９章グローバル化と現代世会 63.冷戦体制の終結 64.地域紛争と世界経済 65.グローバルな認識へ ACTIVE 経済成長がもたらす課題 現代的な諸課題の形成と展望	4	①　知識・技能 冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散と変容とそれらへの対応など冷戦後の国際政治の変容と新しい課題を理解しようとしている。	課題 授業の振り返り 確認テスト	・1960年代以降のヨーロッパとアジアの経済・社会の発展と経済発展による移民や難民など世界規模の人の流れについて理解する。開発独裁について確認し，冷戦期のアジアでは独裁体制が多かったことに留意する。また，現代社会において国境をこえて移動していくことを考察する。 ・冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散，冷戦終結後の国際政治の変容とかだいについて理解する。	写真や統計，グラフなどを活用して，適宜グループ学習を行い意見を出し合いながら発表とた内容を比較検証していく。また，１年間学習した内容を学習班ごとに発表し，学習上の課題をつかみ意欲的・積極的にに解決しようとしている。	
			②　思考・判断・表現 グローバル化のもとでの世界が直面している諸課題の主な要因と経過について，資料や統計などを見ながら多面的に考察し発表し，表現しようとしている。	課題、確認テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 国際社会に生きる日本として，現代の日本に求められることについて，主体的に追究して学習したことを社会生活に活かそうとしている。主題学習についてレポートにまとめ，グループ相互間に説明したり意見を聞いたりすることにより，今日の社会問題を解決する力を見い出す。	学習の取り組み 授業中の発言			
指導時間数の計		76					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○ 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○ 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○ 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学Ⅰ	3	全日制・普通科・1学年	新編　数学Ⅰ（数研出版）

科目の目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)　命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
(3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第１章　数と式 第１節　式と計算	12	①　知識・技能 ・指数法則や乗法公式の意味を理解し、展開ができる。 ・因数分解の公式を理解し、計算できる。 ・式を1つの文字に着目して整理したり、変形したり、置き換えたりして、複雑な式の展開や因数分解ができる。	・定期考査 ・小テスト	○既習事項との関連づけて学ぶ。 ○単項式。多項式の加法・減法・乗法を学ぶ。 ○展開を学ぶ。 ○因数分解を学ぶ。 ○複雑な因数分解を学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・既に学習した計算の方法と関連付けることができる。 ・整式を1つの文字に着目して整理したり、1つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・整式の加法・減法、乗法公式や因数分解などに関心を持ち、目的に応じて式の変形をしようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
5月	第１章　数と式 第２節　実数	8	①　知識・技能 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・分数が有限小数や循環小数で表すことができる。 ・絶対値の意味を理解している。 ・根号を含む式の計算や有理化ができる。	・定期考査 ・小テスト	○数の体系を実数まで拡張できる。 ○分数を小数で表すことを学ぶ。 ○根号を含む計算を学ぶ。 ○絶対値を含む計算を学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・数を拡張してきた過程やその意義、数の四則演算の可能性について考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心を持ち、考察しようとする。 ・分母に根号を含む式において、分母を有理化する方法に関心をもつ。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
5月 4週 ～ 6月 1週目	第１章　数と式 第３節　１次不等式	9	①　知識・技能 ・不等式の解の意味や不等式の性質を理解し、その性質を利用して不等式の解を求めることができる。 ・1次不等式や連立不等式とその解の意味を理解し、解を求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○不等式の意味を理解し、解を数直線上に表すことを学ぶ。 ○不等式や連立不等式の解き方を学ぶ。 ○日常の事象や社会の事象に関連した課題の解決に、不等式を活用することを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・数直線と対比したり、いろいろな数値を代入したりして、1次不等式の解き方を考察することができる。 ・不等式の性質を基にして、1次不等式の解き方を考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・数量の関係を不等式で表すことのよさをとらえようとする。 ・日常の事象や社会の事象に関連した課題の解決に、不等式を活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
6月 2週 ～ 6月 4週目	第２章　集合と命題	11	①　知識・技能 ・ド・モルガンの法則を理解し、利用できる。 ・必要条件、十分条件、逆、対偶など数学的な論理に必要な言葉を適切に使って表現することができる。 ・対偶や背理法を用いて命題を証明することができる。	・定期考査 ・小テスト	○集合の関係を図を用いて考察することを学ぶ。 ○命題について学ぶ。 ○必要条件、十分条件、逆、対偶など数学的な論理に必要な言葉を適切に使って表現することを学ぶ。 ○対偶や背理法を用いて命題を証明することを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報科 社会科 家庭科
			②　思考・判断・表現 ・集合の関係を図を用いて考察することができる。 ・命題p⇒qが真であることが、条件を満たす集合の包含関係と対応しているととらえることができる。 ・結論を否定して推論を始める、背理法の考え方ができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・集合の関係からド・モルガンの法則に気付き、この法則を問題解決に活用しようとする。 ・背理法の考え方に興味を持ち、これを証明に活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			

7月 ～ 9月 1週目	第３章　２次関数 第１節　２次関数とグラフ	10	①　知識・技能 ・関数の定義や関数の式y=f(x)の意味を理解できる。 ・2次関数y=ax^2+bx+cのグラフは、y=ax^2のグラフを平行移動したものであることを理解し、位置関係を調べられる。 ・y=ax^2+bx+cをy=a(x-p)^2+qの形に変形できる。	・定期考査 ・小テスト	○関数の定義や関数の値を学ぶ。 ○2次関数のグラフについて学ぶ。 ○平方完成について学ぶ。 ○与えられた点から2次関数を求めることを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・2つの数量の関係を表、式、グラフなどを用いて考察することができる。 ・y=ax^2+bx+cのグラフはy=ax^2のグラフを平行移動したものであることを理解し、その移動について考察できる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心をもつ。 ・2次関数とそのグラフについて関心を持ち、調べようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
9月 2週 ～ 9月 4週目	第３章　２次関数 第２節　２次関数の値の変化	7	①　知識・技能 ・2次関数の最大値、最小値とその求め方について理解し、基本的な知識を身に付けている。 ・2次関数のグラフや式を用いて、2次関数の最大値、最小値を求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○2次関数のグラフを理解して、最大値や最小値を求めることを学ぶ。 ○具体的な事象の中に2次関数を見いだし、グラフを利用して問題を解くことを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・2次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。 ・具体的な事象の中に2次関数を見出し、その値の変化を考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・2次関数の値の変化の様子についてグラフを用いて考察しようとする。 ・具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
10月 ～ 11月 2週目	第３章　２次関数 第３節　２次方程式と２次不等式	15	①　知識・技能 ・2次方程式の実数解の個数と判別式Dの符号の関係について理解している。 ・2次不等式の解の意味をグラフとの関係から理解している。	・定期考査 ・小テスト	○既習事項と関連付けて学ぶ。 ○2次方程式の解き方（因数分解や解の公式）を学ぶ。 ○2次不等式の解き方（2次関数のグラフを利用）を学ぶ。 ○2次関数のグラフと2次方程式や2次不等式の解の関係を学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・2次方程式の実数解の個数を2次方程式の解の公式を導き出す過程から考察することができる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係を理解し、2次不等式の解を2次関数のグラフを用いて考察できる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・解の公式に関心を持ち、2次方程式の実数解や、実数解の個数を調べることに活用しようとする。 ・2次関数のグラフを使って2次不等式の解を求めることができることを知り、2次不等式を解こうとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
11月 3週 ～ 12月 2週目	第４章　図形と計量 第１節　三角比	11	①　知識・技能 ・正弦、余弦および正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。 ・三角比の相互関係について理解できる。	・定期考査 ・小テスト	○既習事項（三平方の定理など）と関連付けて学ぶ。 ○三角比の定義について学ぶ。 ○三角比を鈍角まで拡張できることを学ぶ。 ○三角形の相互関係を学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・具体的な事象について三角比を使って考察できる。 ・三角比の相互関係を導く過程を考察できる。 ・座標平面上の半円を用いて、鈍角まで拡張した三角比について考察できる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・三角比の相互関係に関心を持ち、直角三角形や三平方の定理を用いて調べようとする。 ・鈍角の三角比を考えることに関心を持ち、鋭角の三角比との関係について考察しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
12月 3週 ～ 1月	第４章　　図形と計量 第２節　三角形への応用	9	①　知識・技能 ・正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連づけて理解し、基礎的な知識を身に付けている。 ・三角形の面積の公式の意味を理解し、基礎的な知識を身に付けている。	・定期考査 ・小テスト	○正弦定理や余弦定理を学ぶ。 ○正弦定理や余弦定理を利用して様々な問題を解く。 ○三角形の面積を公式を利用して解く。 ○学んだ定理や公式を利用し、平面図形や空間図形に活用することを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・正弦定理・余弦定理を導く過程を考察できる。 ・三角形の面積を、三角比を用いて表す過程を考察できる。 ・三角比を空間図形の計量の考察に用いることができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気付き、活用しようとする。 ・三角比を用いて三角形の面積を求めようとする。 ・三角比を、平面図形や空間図形に活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
2月 ～ 3月	第５章　データの分析	13	①　知識・技能 ・四分位範囲、分散、標準偏差、散布図と相関係数などの統計の用語の意味やその扱いを理解している。 ・統計の基本的な考えを用いてデータを整理・分析してその傾向を的確にとらえ説明することができる。	・定期考査 ・小テスト	○統計の用語の意味やその扱いについて学ぶ。 ○与えられたデータから何が分析し、それを言葉で表現することを学ぶ。 ○様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心を持ち、生活や問題解決の中で活用することを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報科 社会科 家庭科
			②　思考・判断・表現 ・データを整理した表や図から傾向を把握することができる。 ・代表値や分散、散布図などから、複数のデータの比較をすることができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・様々な事象から見出される確率や統計に関するデータの分析に関心を持ち、生活や問題解決の中で活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
指導時間数の計		105					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○ 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することで、数学の課題に取り組むことができる。 ○ 自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ○ 主体的・協働的に取り組むことで、実社会や実生活との関わりから問いを見い出し、解決することができる。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
数学A	2	全日制・普通科・１学年	新編　数学A（数研出版）
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)　図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2)　図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 (3)　数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	第１章　場合の数と確率 第１節　場合の数	16	①　知識・技能 ・順列、組合せの用語の意味や考えを理解し、場合の数を効率よく正確に求めることができる。 ・円順列、同じものを含む順列の考えと公式の意味を理解し、それらを利用して問題を解くことができる。	・定期考査 ・小テスト	○順列や組み合わせの用語の意味や考え方を理解し、場合の数を効率よく正確に求めることを学ぶ。 ○和の法則や積の法則について学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報科 社会科 家庭科
			②　思考・判断・表現 ・和の法則、積の法則が、場合の数を数えるときの元になっていることに気づくことができる。 ・場合の数を考えるに当たって、順序を考えるか否かに気づくことができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・起こりうる場合の数をもれなく重複なく数えることに関心をもち、調べようとする。 ・場合の数を効率よく正確に数えるために、順列・組合せの考えを活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
6月 ～ 7月	第１章　場合の数と確率 第２節　確率	14	①　知識・技能 ・確率の基本性質を理解し、それを使って、積事象や和事象、余事象の確率を求めることができる。 ・期待値の意味を理解し、いろいろな事象の期待値を求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○確率の基本性質を理解し、それを使って積事象や和事象余事象を学ぶ。 ○期待値の意味を理解し、いろいろな事象の期待値を求めることを学ぶ。 ○独立な試行の確率や反復試行の確率などの求め方を学ぶ。 ○具体的な例から学んだことを利用して求めることを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報科 社会科 家庭科
			②　思考・判断・表現 ・期待値を用いて、損得を考察することができる。 ・反復試行の確率の公式を導く過程を考察できる。 ・条件付き確率は、すべての根元事象の起こる確率が等しければ、場合の数の数え上げに帰着できることに気づく。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・確率の基本的な性質があることに気づき、これらを利用して確率を求めようとする。 ・期待値を意思決定に活用しようとする。 ・独立な試行や反復試行を具体的な例から考えようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			

9月 ～ 10月	第２章　図形の性質 第１節　平面図形	15	①　知識・技能 ・三角形の角の2等分線と線分の比の関係について理解し、線分の長さを求めることができる。 ・円の性質を系統的に理解し、線分の長さや角の大きさを求めることができる。	・定期考査 ・小テスト	○三角形の性質について学ぶ。 ○円の性質について学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・三角形の特別な点の幾何学的な意味を、いろいろな方法で考察することができる。 ・円周角の定理とその逆を使って、いろいろな円の性質が見出されることを考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・三角形において、3つの線分が1点で交わることの不思議さに気づき、その意味を調べようとする。 ・1つの弧に対する円周角が常に一定であることに気づき、円周角の持つ意味とその働きを理解し調べようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
11月 ～ 12月	第２章　図形の性質 第２節　空間図形	9	①　知識・技能 ・2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置関係、多面体などに関する基本的な性質を理解し基礎的な知識を身につけ、数学的な記号を用いて表現することができる。	・定期考査 ・小テスト	○空間における2直線や2平面の位置関係について学ぶ。 ○多面体などに関する基本的な性質を学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	理科
			②　思考・判断・表現 ・2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置関係について、それぞれどのような場合があるかを考察することができる。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・2直線や2平面の位置関係や直線と平面の位置関係、多面体などに関する基本的な性質を調べようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
1月 ～ 3月	第３章　数学と人間の活動	16	①　知識・技能 ・整数や座標、図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて、数学的な見方で理解する。 ・数学史的な話題、石取りゲームなどを通して、数学と文化とのかかわりについて、数学的な見方で理解する。	・定期考査 ・小テスト	○既習事項に関連付けて学ぶ。 ○約数・倍数などについて学ぶ。 ○整数の割り算・余りの性質について学ぶ。 ○ユークリッド互除法について学ぶ。 ○一次不定方程式について学ぶ。 ○記数法を学ぶ。 ○座標の考え方を学ぶ。 ○ゲームやパズルに数学的考え方を利用できることを学ぶ。 ○身につけた知識を元に問題演習を主体的及び協働的に行う。	応用問題や公式などについてグループで話し合わせ各グループごとに発表する。 答のみではなくしっかりと筋道を立て説明させる。 また、発問を工夫し、いろいろな問題解決からより簡易的に求める方法を判断させ、数学の利便性を認識させる。	情報科 社会科 家庭科
			②　思考・判断・表現 ・人間の活動について、整数の性質や相似などの学んできたことをもとに考察しようとする。 ・パズルなどに数学的な要素を見出し、数学を活用して考察しようとする。	・定期考査 ・提出物の内容			
			③　主体的に学習に取り組む態度 ・人間の活動やパズルなどを理解するために、数学を活用しようとする。	・学習活動への取り組み ・課題、提出物の状況、ノート、プリント、レポート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） 科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な知識および観察、実験などに関する技能を身につける。 ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） 自らの課題を設定し、課題解決に向けて多面的・多角的に思考し、科学的に探求することができる。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
化学基礎	2	全日制・普通科・１学年	新編化学基礎（数研出版）

科目の目標	○日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的に技能を身に付ける。 ○観察実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	・混合物と純物質	4	①　知識・技能 混合物と純物質の違い、分離精製方法について考えることができる。純物質は単体と混合物に分類されることを理解する。	定期テスト 小テスト 課題 レポート	・身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考え、純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。 ・分離の方法を実験で確かめる。	・混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を説明する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 実験を通して混合物の分離方法について考え、表現することができる。ろ過や蒸留の留意点について考えることができる。	定期テスト 小テスト 課題 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 化学は物質を探究する学問であり、身のまわりの物がどんな物質でできているかという視点で考えようとする。	定期テスト 小テスト 課題			
5月	・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動	6	①　知識・技能 元素の確認法として炎色反応と沈殿反応を理解する。物質の三態が粒子の熱運動と関わっていることを理解する。	定期テスト 小テスト 課題 レポート	・物質は元素からつくられており、物質を構成する元素は約120種類あることを知る。 ・元素の検出方法を実験で確かめる。 ・いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・拡散という現象を理解し、その現象は熱運動によることを理解する。	・元素の同素体について説明する。 ・粒子の熱運動について説明する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 元素の確認法を実験で確かめ、説明できる。物質の三態や状態変化を粒子の熱運動で説明できる。	定期テスト 小テスト 課題 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 原子番号１～20の元素を元素記号で表すことができる。熱と物質の三態や状態変化について考えようとする。	定期テスト 小テスト 課題			
6月	・原子とその構造 ・イオン ・元素の周期表	8	①　知識・技能 原子の大きさや構造について理解する。電子配置と原子の性質の関係について理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・原子の大きさや構造について知り、陽子・中性子・電子の性質を理解する。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。	・同位体について説明する。 ・貴ガスの場合は最外殻電子と価電子が違うことを説明する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 原子番号や質量数について理解し、それらを用いて原子を表すことができる。電子配置と周期律を関連づけて説明できる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 物質を構成する粒子が原子であることに気づく。エレメントカードを用いて、元素の周期律について確認する。	定期テスト 小テスト 課題			
7月	・イオン結合とイオンからなる物質 ・分子と共有結合 ・共有結合の結晶 ・金属結合と金属	8	①　知識・技能 電子配置からのイオンの生成、共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。自由電子と金属結合の仕組みを理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・電子配置からイオンの生成を理解し、イオン結合の形成について理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性について理解する。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。	・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を説明する。 ・身のまわりの物質で分子でできているものにはどのようなものがあるかを話し合う。 ・身のまわりの金属はどのような種類や性質があるかを話し合う。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 ３つの結合の成り立ちを電子配置と関連づけて説明できる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身近に使われているイオン結晶、分子結晶、共有結合の結晶、金属の用途や性質を調べ、日常生活や社会に活かそうとする。	定期テスト 小テスト 課題 相互・自己評価			

9月	・原子量、分子量、式量 ・物質量 ・溶液の濃度	8	①　知識・技能 相対質量という考え方を理解し、原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。モル濃度による濃度の表し方を理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・原子の相対質量を知り、身近な粒の質量測定から相対質量を考える。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。	・反応に関わる物質量の比が化学反応式の係数の比を表していることを見いだして理解する。化学反応の表す量的関係について発表する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 物質１molの意味を説明でき、物質量と質量や気体の体積の単位変換ができる。質量%濃度とモル濃度の違いを考えることができる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 身近な粒の質量測定から相対質量を考えようとする。実験を通してアボガドロ数を考えようとする。簡単な濃度の調整ができる。	定期テスト 小テスト 課題			
10月	・化学反応式と物質量 ・酸、塩基 ・水の電離と水溶液のpH	8	①　知識・技能 化学反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。酸と塩基の定義、Ｈ＋やＯＨ－とｐＨの関係を理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレーニウスの酸・塩基の定義を理解する。 ・ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度はｐＨでも表せることを理解する。	・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを説明する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 化学反応式の係数が表している量的関係を説明できる。酸塩基の価数や電離度と強弱について考察できる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 反応に関わる物質量の比が反応式の係数比を表していることに気づく。実験を通して身近な酸塩基について考えようとする。	定期テスト 小テスト 課題			
11月	・中和反応と塩 ・中和滴定	7	①　知識・技能 中和とその量的関係を理解する。中和滴定の器具の使い方と実験操作を理解する。滴定曲線を分析し、適切な指示薬を選択できる。	定期テスト 小テスト 課題 レポート	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・実験観察を通して、塩の水溶液のｐＨを測定する。その塩をつくるもとになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 ・中和の条件は、酸から生じるH+の物質量と塩基から生じるOH－の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。	・身のまわりにある酸や塩基は何があるか、話し合う。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 塩をつくるもとになった酸と塩基およびその強弱を説明できる。中和点が中性になるとは限らないことを説明できる。	定期テスト 小テスト 課題 レポート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 実験を通して食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和の量的関係を理解しようとする。	定期テスト 小テスト 課題 相互・自己評価			
12月	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤	7	①　知識・技能 酸化還元の仕組みを理解し、酸化剤と還元剤から酸化還元のイオン反応式をつくることができる。また、量的関係を理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。	・身のまわりで起こる酸化や還元にはどのようなものがあるか話し合う。 ・身のまわりにある酸化剤や還元剤のはたらきについて説明する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 酸化還元のしくみを酸素、水素，電子の授受および酸化数で説明できる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 生活の中の酸化と還元を考えようとする。実験を通して酸化剤と還元剤の働きの強さを調べようとする。	定期テスト 小テスト 課題			
1月	・金属の酸化還元反応	6	①　知識・技能 金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを理解する。	定期テスト 小テスト 課題	・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。	・実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いについて話し合う。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 金属と空気、水、酸との反応性の違いを、イオン化傾向と関連づけて考えることができる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 金属の陽イオンへのなりやすさを調べてその関係性を見いだそうとする。	定期テスト 小テスト 課題			
2月	・酸化還元反応の利用	5	①　知識・技能 ダニエル電池のしくみを理解し、実用電池の構造や用途、特徴を知る。	定期テスト 小テスト 課題	・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を話し合う。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し、関係性を説明できる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知ろうとする。	定期テスト 小テスト 課題 相互・自己評価			
3月	・化学が拓く世界	3	①　知識・技能 化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解している。	定期テスト 小テスト 課題	・化学基礎で学んできたことが日常生活や社会生活を支えている科学技術と結びついていることを理解する。	・化学基礎で学んできた科学技術が、どのように日常生活や社会生活を支えているか話し合い発表する。	家庭科 地歴・公民科
			②　思考・判断・表現 身のまわりの生活の中で化学が利用されているものを、化学的な根拠をもとに挙げることができる。	定期テスト 小テスト 課題			
			③　主体的に学習に取り組む態度 化学基礎で学んできたことを教科書の題材以外にも活かし、探究しようとする。	定期テスト 小テスト 課題			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
保健	1	全日制・普通科 ・１学年	現代高等保健体育（大修館書店）
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせて，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第２週 ～４月 第４週	現代社会と健康　健康の考え方	2	①　知識・技能 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりがかかわることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 健康の考え方に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 健康の考え方についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
5月 第１週 ～6月 第２週	現代社会と健康　　生活習慣病・がんの予防と回復、運動・食事・休養と健康	6	①　知識・技能 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明してる。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 生活習慣病などの予防と回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
6月 第３週 ～７月 第２週	現代社会と健康　喫煙・飲酒・薬物乱用	3	①　知識・技能 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康にかかわる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくり等と、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			

9月 第1週 ～10 月第2 週	現代社会と健康　喫煙・飲酒・薬物乱用	6	①　知識・技能 　喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　喫煙、飲酒、薬物乱用と健康にかかわる事象や情報から課題を発見し、疾病などのリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくり等と、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　喫煙、飲酒、薬物乱用と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
10月 第3週 ～11 月第4 週	現代社会と健康 精神疾患の予防と回復	6	①　知識・技能 　精神疾患の予防と回復には，運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに，心身の不調に気付くことが重要であること，疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　精神疾患の予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し，疾病等のリスクの軽減，生活の質の向上，健康を支える環境づくりなどと，解決方法を関連付けて考え，適切な方法を選択し，それらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　精神疾患の予防と回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
12月 第1週 ～12 月第3 週	現代社会と健康 安全な社会づくり	3	①　知識・技能 　安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備がかかわること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　安全な社会づくりに関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測をもとに、危険を回避する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　安全な社会づくりについての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
1月 第2週 ～3月 第3週	現代社会と健康 応急手当	7	①　知識・技能 　適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があること、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行うことが必要であることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。	・テスト ・観察	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。	・家庭基礎（生涯の生活設計）
			②　思考・判断・表現 　応急手当に関わる事象や情報から発見し、傷害の悪化などを防止する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	・学習ノート ・レポート ・観察			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　応急手当についての学習に自主的に取り組もうとしている。	・観察			
指導時間数の計		35					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに，技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
体育	3	全日制・普通科・１学年	
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに，自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的，計画的な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに，それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，参画する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4 月 第 2 週 ～ 5 月 第 2 週	体つくり運動	10	①　知識・技能 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。	・観察 ・学習カード	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（豊かなスポーツライフの設計の仕方） ・保健（精神疾患の予防と回復）
			②　思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 体つくりの運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いにい応じた動きなどを大切にしようとすること、話し合いに貢献しようとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
5 月 第 3 週 ～ 6 月 第 1 週	球技 （ネット型） ・ソフトテニス ・バンポン	10	①　知識・技能 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（ペアワーク） ・計画の発表、実践（ペアごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
6 月 第 2 週 ～ 6 月 第 5 週	球技 〔ベースボール型〕 ・ソフトボール	12	①　知識・技能 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践（個人目標を設定） ・運動計画の作成（グループワーク） ・計画の発表、実践（グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論（運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			

7月 第1週 ～ 9月 第2週	水泳	12	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 　手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 ・計画の実践	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしたりすることなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
9月 第3週 ～ 9月 第4週	体育理論	6	①　知識・技能 　スポーツの文化的特性や、現代のスポーツの発展について理解している。	・観察 ・小テスト	・講義 ・ワークシート作業 ・レポート作成 ・グループワーク	・事実を正確に理解し伝達する。 ・他者の意見を解釈し自分の意見を深める。	
			②　思考・判断・表現 　スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・観察 ・小テスト			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	・観察 ・小テスト			
9月 第5週 ～ 11月 第1週	球技 （ネット型） ・バレーボール ・バドミントン	18	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 　役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第2週	陸上競技 ・長距離走	10	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 　自己に適したペースを維持して走ることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （長距離走） ・学習カード作業 ・個人目標設定	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　陸上競技に自主的に取り組むとともに，勝敗などを冷静に受け止め，ルールやマナーを大切にしようとすること，自己の責任を果たそうとすること，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしたりすることなどや，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
12月 第3週 ～ 2月 第2週	球技 〔ゴール型〕 ・サッカー	18	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 　安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前の侵入などから攻防することができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
2月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 （ネット型） ・ソフトテニス ・パンポン	9	①　知識・技能 　技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 　役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・観察 ・技能テスト	・個別の運動実践 （個人目標を設定） ・運動計画の作成 （グループワーク） ・計画の発表、実践 （グループごと）	・意義、原則などを理解し、グループ内で議論する。 ・自らの考えを整理して、他者に伝える。	・体育理論 （運動やスポーツの効果的な学習の仕方）
			②　思考・判断・表現 　攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・観察 ・学習カード			
			③　主体的に学習に取り組む態度 　球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり，健康・安全を確保したりしている。	・観察 ・学習カード			
指導時間数の計		105					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（教科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） （3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
美術Ⅰ	2	全日制・普通科・1学年	美術Ⅰ（光村）
科目の目標	○対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 ○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ,心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～ 4週 3日	デッサン （入学した時の気持ちを手に託して表現する）	6	①　知識・技能 造形の要素（明暗・手の構造・ポーズ・構成の効果）を理解している。 意図に応じて鉛筆の特性を生かして表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	実技（鉛筆の研ぎ方・ハーフトーンの付け方・明暗質感の表現・立体感の付け方）作品	鉛筆をデッサン用に研ぎ、ハーフトーンを作る。 入学した時の気持ちをポーズに託し鉛筆デッサンで表現する。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 入学当初の思いや願いを基に主題を生成し、表現形式の特性を生かし、ポーズや構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 入学当初の自分の気持ちを鉛筆デッサンで表現することに興味を持ち主体的に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
5月 1週 ～ 3週 3日	感じたことを生かして （アートカードの模写から）	6	①　知識・技能 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 意図に応じて材料や用具の特性を生かし表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	ワークシート 作品	アートカードを使ったゲームをする。 　ヒントを基に絵を描こう 　共通点を探そう アートカードの中から1枚選んび、作品について感じたことをワークシートにまとめる。 感じたことを生かしてアートカードの模写をする。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな気持ちが込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 名画から感じ取ったことや考えたこと、想像などから主題を生成し表現形式の特性を生かし、創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 名画の多様な表現に興味・関心を持ち、主体的に鑑賞に親しみ、よさや美しさを味わい作品に対する理解や見方を広げようとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
5月 4週 ～ 7月 1週 6日	色彩演習Ⅰ （トーナルカラー）	12	①　知識・技能 意図に応じて必要な色（補色・類似色）のトーナルカラーを選択し、表現に生かしている。 造形の要素（色の持つ効果）を理解している。 意図に応じ必要な色（補色・類似色）のトーナルカラーを選択し、表現に生かしている。	ワークシート 実技（補色・類似色） 作品	色について学ぶ ・色の三要素 ・トーン ・補色 ・類似色 トーナルカラーを使用し、条件に合った（補色・類似色等）表現をする。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や意図が込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	理科
			②　思考・判断・表現 目的や条件、美しさなどを考え、色の持つ効果生かした構想を練ろうとしている。 色の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成し色の持つ効果などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 色の持つ働きを生かしたデザイン作品の制作に興味を持ち主体的に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			

7月 2週 ～ 9月 2週 3日	色彩演習Ⅱ （アクリル絵の具）	6	①　知識・技能 造形の要素（色の持つ効果）を理解している。 意図に応じ必要な色（補色・類似色）を選択し、アクリル絵の具・烏口の特性を生かして表現している。	実技（烏口・みぞ引きの使い方・平塗りの仕方） 作品	画材・用具の使い方について学ぶ。 　アクリル絵の部 　烏口 　みぞ引き 絵の具と筆、烏口を使用し、提示された条件に従い、色面構成を行う。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や意図が込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 色の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成し色の持つ効果などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 色の持つ働きを生かしたアクリル絵の具によるデザイン作品の制作に興味を持ち活動に主体的に取り組もううとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
9月 3週 ～ 12月 1週 10日	ポスター （メッセージ・フロム・ミー）	20	①　知識・技能 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 レタリングやコラージュなど表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	ワークシート 実技（レタリング・コラージュ） 作品	ポスター制作の手順と技法について学ぶ 　レタリング 　コラージュ 「自分」をテーマにキャッチコピーを考案し、これに相応しいイラストを描き、ポスターのレイアウトをする。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や意図が込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 自己を見つめ直し、感じ取ったことや考えたことなどから「自分」をテーマにキャッチコピーを考案し、ポスターの主題を生成している。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 「自分」をテーマにしたポスター制作に興味を持ち活動に主体的に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
12月 2週 ～ 3月 2週 10日	彫り進み木版画 （茨城県の民話から）	20	①　知識・技能 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。 意図に応じて彫刻刀やノミを使い分けたり、刷りの特性を生かしたりして主題を追求して創造的に表している。	ワークシート 実技（彫刻刀・ノミの使い方・刷り方） 作品	木版画（彫り進み版画）の技法について学ぶ 　彫刻刀の使い方 　見当の付け方 　刷りの方法 郷土茨城の民話を読んで（3択）感じたこと・イメージを彫り進み木版画で表現する。 できあがった作品の鑑賞会を行う。	話し合い活動 （参考作品を鑑賞してどんな工夫や意図が込められているか考える） 鑑賞会 （できあがった作品をお互いに鑑賞し合いコメントをする）	
			②　思考・判断・表現 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 郷土茨城の民話を読んで感じ取ったことや考えたことなどからイメージをふくらませ、木版画の表現形式の特性を生かし、形体や色彩、創造的な表現の構想を練ろうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート 作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 「郷土茨城の民話をテーマにした木版画制作に興味を持ち活動に主体的に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
3月 3週 1日	オリエンテーション （これからの私と美術）	2	①　知識・技能 造形の要素の働きを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	ワークシート	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるか考えると共に、「美術とは何か」について1年間の学びと共に振り返る。	話し合い活動	
			②　思考・判断・表現 自然と美術の関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めている。	取り組み姿勢 ワークシート			
			③　主体的に学習に取り組む態度 主体的に作品や美術文化の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	取り組み姿勢 ワークシート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（芸術科書道Ⅰ）

学校番号　6

学校の教育目標	（1）　校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2）　授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3）　特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） （3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
書道Ⅰ	2	全日制・普通科・１年	書Ⅰ（光村図書）
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） （2）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等） （3）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～3週 2日	○書写から書道へ ・用具　用材の使い方	4	①　知識・技能 国語科書写と芸術科書道の違いを理解する。 用具・用材に関する知識や使い方を理解する。	筆の持ち方・墨のすり方・作品ノートの貼り方	墨をする 筆に墨を含ませ、起立・着席 連続して書き続ける「ぐるぐる」 隣の生徒の用筆用墨を観察し、 できあがった「ぐるぐる」を相互に評価しあう。	相互に観察して批評しあう	国語科書写
			②　思考・判断・表現 墨を含ませた筆でどこまで墨が続くか 「ぐるぐる」を通して、運筆に適切な墨の濃さを確認して最後まで書き続ける。	ぐるぐる			
			③　主体的に学習に取り組む態度 教師の指導をきちんと聞く姿勢をもち、簡単なことを正しく習得しようとする。	作品ノート（記名・作品の貼り方）			
4月 4週 ～ 6月 2週 6日	○漢字の書 唐の四大家に学ぶ楷書の基本 ・孔子廟堂碑 ・顔氏家廟碑 ・雁塔聖教序	１２	①　知識・技能 それぞれの古典の特徴を理解し、筆を使って正しく再現する。	臨書作品	半紙への臨書 ・４字書 ・２字書 ・１字書	隣の生徒との相互批評	地歴科
			②　思考・判断・表現 背勢と向勢の違いを理解して、正しく再現する。 字形の特徴・全体の構成を理解する。	臨書作品		批評会における感想発表	
			③　主体的に学習に取り組む態度 それぞれの古典の特徴を主体的に理解して正しく再現しようと筆使いを工夫する。	学習の取り組み 疑問点に対する質問	音楽を聴き、連想した感情を漢字１字で表現する		
6月 3週 ～ 7月 3週 6日	○漢字の書 行書の基本を押さえよう ・蘭亭序 ・風信帖	１２	①　知識・技能 行書の特徴（点画の省略・点画の連続・筆順の変更等）を理解し適切に再現する。	臨書作品	半紙への臨書 ・４字書 ・２字書 ・画仙紙（半切1/21/2）	隣の生徒との相互批評	地歴科
			②　思考・判断・表現 線質・字形・全体の構成・変化と統一のバランス等を理解し、自由に表現できる。	臨書作品		批評会における感想発表	
			③　主体的に学習に取り組む態度 それぞれの古典の特徴を主体的に理解して正しく再現しようと筆使いを工夫する。	学習の取り組み 疑問点に対する質問 作品ノート	音楽を聴き、連想した感情を漢字１字で表現する		

9月 1週 ～ 11月 2週 7日	○仮名の書 仮名の基本を身につけよう ・基本線　単体 ・高野切 ・蓬莱切 ・名前（連綿・変体かなを使って）	１４	①　知識・技能 仮名の成立の過程を理解し、中学校書写の平仮名との違いを理解しする。	臨書作品	半紙への臨書 ・大字かな（６字書） ・原寸大 「いろは歌」を変体かな・連綿を入れて創作する。 藤原敏行「秋来ぬと・・」歌を変体かな・連綿を入れて創作する。	隣の生徒との相互批評 疑問点を指導者に自主的に質問	地歴科
			②　思考・判断・表現 古筆の線質と結構を理解する。 字母をふまえ変体仮名の字形を理解し、連綿の流動性・墨継ぎ等を理解して表現を工夫する。	臨書作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 変体仮名や連綿を入れた「名前」「いろは歌」「藤原敏行の歌」の倣書・創作に意欲的に取り組もうとしている。	倣書・創作作品 疑問点に対する質問 作品ノート 学習の取り組み			
１１月 4週 ～ １２月 3週 4日	○漢字仮名交じりの書 漢字仮名交じりの書を表現しよう ・高村光太郎はがきの臨書 ・校歌の創作	8	①　知識・技能 近代人の書簡文に親しみ、戦後しばらくまで変体仮名が使用されており、古典を踏まえた表現を心がけていたことを理解する。	臨書作品	半紙への臨書 ・高村光太郎はがき ・会津八一書簡 「多賀高校校歌」を創作する。	隣の生徒との相互批評 疑問点を指導者に自主的に質問	国語科 美術 光太郎彫刻 智恵子紙絵
			②　思考・判断・表現 漢字と仮名の調和を図る技能を身につけ、効果的な表現にするため文字の大きさや配置に工夫する。	臨書作品			
			③　主体的に学習に取り組む態度 校歌の創作に意欲的に取り組もうとしている。	学習の取り組み 創作作品（校歌） 疑問点に対する質問			
1月 2週 ～ 2月 4週 7日	○漢字の書（小楷） ・隅寺心経の全臨 ・表札の創作	１４	①　知識・技能 天平写経の書道史上の価値を理解する 小楷（古写経）の繊細な筆使いを習得しする。	臨書作品（隅寺心経）	小字へのアプローチ 隅寺心経の全臨 表札の制作	隣の生徒との相互批評 疑問点を指導者に自主的に質問	地歴科
			②　思考・判断・表現 写経体で筆順等不明な場合はそのままにせず、指導者に積極的に質問し、臨書作品に活かす。	臨書作品（隅寺心経） 疑問点に対する質問			
			③　主体的に学習に取り組む態度 全臨を途中手を抜かずに完成する。 表札の制作（整面・校字・練習）に意欲的に取り組む。	学習の取り組み 創作作品（表札原稿・表札）			
3月 1週 ～ 3月 3週 3日	○生活の中の書 ・はがき　封書の上書き ・金封の上書き ・履歴書	6	①　知識・技能 暮らしの中に生きている書を理解し、自らも書を生かそうとする心情を養う。	臨書作品	臨書（はがき　封書の上書き） 履歴書（硬筆）	隣の生徒との相互批評 疑問点を指導者に自主的に質問	国語科
			②　思考・判断・表現 全体の中での文字のバランス等を配慮して美しい筆文字を実用的に書こうと工夫する。	創作作品（はがき金封）			
			③　主体的に学習に取り組む態度 不明な点は指導者に自発的に質問する。	学習の取り組み 履歴書 振り返りアンケート			
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀高等学校　年間指導計画　（家庭科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○ 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家 族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を 主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ○ 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察 したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見 通して生活の課題を解決する力を養う。 ○ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
家庭基礎	2	全日制・普通科・１学年	家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）
科目の目標	○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、 それらに係る技能を身に付けるよ うにする。 ○ 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ○ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとすると ともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		

時期 月 週 日	単 元・題 材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 3日	第１章　これからの人生について考えてみよう ・ガイダンス 1　自分の未来予想図を描こう～生涯発達と発達課題～	2	①　知識・技能 人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。	レポート 定期考査	・ライフステージにおける発達段階について学び、現在の自分の課題を考える。 ・今の自分について自己分析を行い、未来予想図を描く。		
	第１章　これからの人生について考えてみよう 2　これからの人生をデザインする	1	②　思考・判断・表現 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	レポート・振り返り レポート・振り返り	・人生をデザインするうえで必要な準備を考え、シミュレーションする。 ・こんにちの社会背景を踏まえて、具体的に生涯にわたる生活設計を考える。		
5月 3週 6日	第2章　自分らしい生き方と家族 1　自立と共生	1	①　知識・技能 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	定期考査 レポート	・「大人」と自分を比較し、不足している点を考える。 ・青年期の特徴について学ぶ。 ・これからの自分自身と社会のあり方を展望する。	自分の意見の発表	
	第2章　自分らしい生き方と家族 2　ライフキャリア	1	②　思考・判断・表現 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察 したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・働く意義とどのような仕事（職場）で働きたいと思うかを考える。 ・職業労働と家事労働の違いをまとめる。 ・職業生活や家庭生活における時間の使い方について考える。	自分の意見の発表	
	第2章　自分らしい生き方と家族 3　共に生きる家族	2			・「家族」の条件とは何か考える。 ・家族のライフイベントについて考える。 ・家族が抱える問題を踏まえて、家族を支えるしくみについて具体的に考える。	グループでの話合い、発表（家族の条件、資料読み取り）	
	第2章　自分らしい生き方と家族 4　家族に関する法律	2	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 ・家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。	グループでの話し合い（選択的夫婦別姓制度） 発表	地歴公民
6月 4週 8日	第３章　子どもとかかわる 1　子どもとは	1	①　知識・技能 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。	定期考査 レポート	・青年期の健康を学ぶことで、次世代を担う子どもを育て、はぐくんでいくことの責任感を養う。 ・子どもの感じ方についての例を出しあう。	グループでの話し合い（赤ちゃんは何歳までか、アニミズムの例を出しあう） 発表	
	第３章　子どもとかかわる 2　子どもの発達	2	②　思考・判断・表現 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現 するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・子どもの発達について考える。 ・子どものからだの成長のようすを学ぶ。	グループでの話し合い 発表	保健
	第３章　子どもとかかわる 3　子どもの生活	2			・子どものころを振り返ることで、基本的生活習慣や社会的生活習慣の身につき方を学ぶ。 ・子どもの食生活・衣生活、安全管理について学び、子どもとかかわれるようにする。 ・絵本作りや読み聞かせを通して、子どもの遊びの意義や課題について考える。	発表（子どものころの振り返り、絵本の読み聞かせ）	保健
	第３章　子どもとかかわる 4　子どもをはぐくむ	2	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート 発表の取り組み	・子育て中の親とかかわることで、現代の親子にかかわる課題と、解決の方向性を探る。 ・赤ちゃんふれあい体験などで実際に子どもとふれあう。	発表（子育て中の親にインタビュー）	
	第３章　子どもとかかわる 5　子どものための社会福祉	2			・子育てにかかわる社会的課題について知り、どのようなサポートが必要とされているのか考える。 ・世界の子どもの未来に向けての課題解決の方法を考える。	グループでの話し合い、発表（世界の子どもの未来に向けて）	地歴公民

	第７章 衣生活をつくる １　人と衣服のかかわり	1	①　知識・技能 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・ 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	定期考査 レポート	・季節ごとの着こなしについて考える。 ・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服について知り、人はなぜ衣服を着るのか考える。 ・衣服が持つ機能や安全性などについて学ぶ。	自分の意見の発表	
	第７章 衣生活をつくる ２　衣服の素材の種類と特徴	1			・快適な衣服の特徴や機能について考える。 ・暮らしの中での素材衣服の性能と改善について学ぶ。	グループでの話し合い（快適な衣服について） 実験（吸水・速乾性）	
7月 3週 6日 9月 1週 2日	第７章 衣生活をつくる ３　衣服の選択から管理まで	1	②　思考・判断・表現 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察した ことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。	グループでの話し合い（身近な取り扱い絵表示） 実験（界面活性剤のはたらき、しみ抜き）	理科
	第７章 衣生活をつくる ４　持続可能な衣生活をつくる	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、 振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。	グループでの話し合い（衣生活におけるエシカル）	
	第７章 衣生活をつくる ５　衣服の構造・デザイン	4			・洋服と和服の違いを考える。 ・日常着を製作する。 ・浴衣の着つけについて学ぶ。	製作実習（教えあい）	
7月 1週 1日 9月 1週 2日	ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動	3	①　知識・技能 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。	レポート	・生活をあらためて見直し、解決することを検討する。 ・具体的な解決方法を探り、実際に改善する。	レポート発表	
			②　思考・判断・表現 自己の家庭生活や地域の生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、 実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	レポート・振り返り			
			③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	レポート 発表態度			
9月 2週 4日	第4章　高齢者とかかわる １　高齢社会に生きる	1	①　知識・技能 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解しているとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。	定期考査 レポート	・これまでの高齢者とのかかわりを振り返る。 ・高齢社会の現状を知り、身近な問題としてとらえる。	自分の意見の発表	地歴公民
	第4章　高齢者とかかわる ２　高齢者を知る	2	②　思考・判断・表現 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・高齢者についてのイメージをまとめる。 ・高齢者の生活場面を体験する。 ・高齢者と家族とのかかわり、経済、社会での活躍などを知り、高齢者における生活の課題について考える。	・グループでの話し合い（高齢者の生活場面における工夫や改善） ・発表（高齢者の生活場面を体験した振り返り）	
	第4章　高齢者とかかわる ３　高齢者の自立を支える	1			・要介護の高齢者との接し方を考える。 ・高齢期の生活を健康に過ごすための心がけについて考える。 ・日常生活の介助を体験する。	自分の意見の発表	
	第4章　高齢者とかかわる ４　高齢社会を支えるしくみ	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・高齢者施設での利用者の過ごし方、どんな人が働いているかについてまとめる。 ・介護をめぐる課題の解決にはどのようなことが必要か考える。	自分の意見の発表	
10月 2週 4日	第5章　社会とかかわる １　支えあって生きる	1	①　知識・技能 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。	定期考査 レポート	・人の一生と社会福祉とのかかわりをイメージすることで、「福祉」の意味について考える。 ・社会保障制度のしくみを踏まえて将来に向けての課題を考える。	自分の意見の発表	地歴公民
			②　思考・判断・表現 家庭や地域及び社会の一員として の自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り			
	第5章　社会とかかわる ２　共生社会を生きる	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・暮らしの中の支えあいについて考える。 ・ボランティア活動や地域社会でのさまざまな活動の意義について考える。	自分の意見の発表	
１０月 １週	第６章 食生活をつくる １　日本の食文化の形成	2	①　知識・技能 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・ 管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	定期考査 レポート	・日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。	自分の意見の発表	
	第６章 食生活をつくる ２　私たちの食生活	2			・食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ・ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。	・発表（味わうことを表現する）	

1週 1日 11月 4週 8日 12月 3週 6日	第6章 食生活をつくる 3　栄養と食品のかかわり	2	②　思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力 を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 ・食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。	自分の意見の発表	理科
	食生活をつくる 4　食品の選び方と安全	2			・旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。	自分の意見の発表	理科
	第6章 食生活をつくる 5　食事の計画と調理	8	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート 発表内容	・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	グループでの話し合い（食事の計画、調理） 調理実習	
	第6章 食生活をつくる 6　これからの食生活を考える	2			・食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 ・環境に配慮した食生活（食品ロス等）について考える。 ・日本の食料自給率の現状を理解する。	発表	地歴公民
1月 3週 6日	第8章 住生活をつくる 1　人間と住まい	1	①　知識・技能 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	定期考査 レポート	・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。 ・気候風土と住まいとの関係、そこでの人間の営みとの関係を考える。	グループでの話し合い（家の材料、平常時の住生活と災害時の住生活の比較、住まいを失う可能性）	
	第8章 住生活をつくる 2　住まいの文化				・和風木造住宅の空間的な特性や工夫をまとめる。 ・現代の暮らしにいかすことができる和の住文化をまとめる。	発表（一足制のメリット・デメリット）	
	第8章 住生活をつくる 3　住まいを計画する	2	②　思考・判断・表現 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・ライフステージによる住まいの変化について考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。	グループでの話し合い、発表（家具の配置など）	
	第8章 住生活をつくる 4　健康に配慮した快適な室内環境	1			・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音、冷暖房などの要素を学ぶ。	自分の意見の発表	
	第8章 住生活をつくる 5　安全な住まい	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・災害情報の入手方法、安全への備えとして必要なことを考える。 ・誰もが安全に住むための工夫を考える。	グループでの話し合い、発表（校内やまちなかでの経験、被災した場合のシミュレーション）	
	第8章 住生活をつくる 6　持続可能な住まいづくり	1			・住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。 ・居住問題についての法律・制度・施策を調べる。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。	自分の意見の発表	
2月 3週 5日	第9章　消費行動を考える 1　消費行動と意思決定	1	①　知識・技能 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解しているとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。	定期考査 レポート	・主体的な消費行動について多角的に考える。 ・情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。	自分の意見の発表	
	第9章　消費行動を考える 2　消費生活の現状と課題	1	②　思考・判断・表現 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・契約、多様な販売方法や支払い方法について学ぶ。 ・問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。	グループでの話し合い（通信販売の問題点と対策、多様な支払い方法のメリットとデメリット）	
	第9章　消費行動を考える 3　消費者の権利と責任	2			・消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 ・これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を検討する。	自分の意見の発表	地歴公民
	第9章　消費行動を考える 4　ライフスタイルと環境	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート 発表内容	・日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 ・持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。	グループでの話し合い・発表（ライフスタイルの見直し）	
2月 1週 2日	第10章　経済的に自立する 1　暮らしと経済	2	①　知識・技能 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。	定期考査 レポート	・生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 ・収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 ・適切な家計管理について考える。	発表（金銭感覚チェック）	地歴公民
3月 1週 2日	第10章　経済的に自立する 2　将来のライフプランニング	2	②　思考・判断・表現 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期考査 レポート・振り返り	・将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 ・金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。	自分の意見の発表	
3月 1週 1日	生活設計	1	③　主体的に学習に取り組む態度 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。	確認テスト レポート	・家庭基礎の学習を生かして、自分らしい生き方を設計する。	自分の意見の発表	
指導時間数の計		70					

茨城県立多賀学校　年間指導計画　（外国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
英語コミュニケーションⅠ	4	全日制・普通科・1学年	MY WAY English Communication Ⅰ（三省堂）
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	【聞くこと】　自分自身や身の回りのこと，日常生活のことなど，身近なトピックについての簡潔な説明を理解できる。 【読むこと】 平易な表現を用いて書かれた人物描写、場所の説明，日常生活や文化の紹介などの説明文を理解できる。 【発表】　自分に直接関わりのある話題について，補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 【やりとり】　身近な話題について聞いた内容に関して，質問をしたり適切に答えたりできる。 【書くこと】　自分の身の回りの出来事や趣味などについて，個人的経験に基づいて，短い文章を書ける。（2～3文，50words程度）		

時期 月 週 日	単元・題材名	指導時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法 （箇条書きで）	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	Lesson 1	10	さまざまなフォントの役割についてのレクチャーから、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 現在・過去・進行形、SVO(O=that節)について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	発表	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[発表]）	国語 地理
5月	Challenge 1	2	駅以外でエキマトペが必要とされる場所と理由について考える。	意見交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	公共
	Lesson 2	10	ビーバーの生態についてのスピーチから、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりすることを通して共生することの大切さについて学ぶ。 受け身、助動詞のついた受け身、比較級・最上級について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	意見交換や情報交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	生物
6月	Challenge 2	2	オーストラリアでの野生動物の保護活動について、概要を聞き取ったり読み取ったり、野生動物の様々な保護活動について考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	生物
	Lesson 3	10	代替食品の人気が高まる現状について会話から、概要や要点を聞き取り、その背景や今後の展望について考える。 動名詞/ to不定詞（名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	情報交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	家庭
	Challenge 3	3	3-Dフードプリンターについて、概要を聞き取ったり読み取ったりし、多様化する食の可能性について考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	家庭
7月	Lesson 4	10	『くまのプーさん』シリーズのエピソードを通して作者が伝えようとしたメッセージを理解し、それについて考える。 現在完了形・現在完了進行形・過去完了形について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	意見交換や情報交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[発表]）	国語 公共
	Challenge 4	3	ムーミンシリーズに登場するキャラクターやメッセージについて学び、作者が物語に込めた反戦の思いについて考える。	意見交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	公共

9月	Lesson 5	10	消滅の危機にある世界の言語について学び、言語消滅の要因および解決策を考える。 関係代名詞（主格・目的格・what）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	意見交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	地理 国語
	Challenge 5	3	マオリの独特の文化を示すSNS用の絵文字の誕生について学び、消滅の危機にある言語とその背景にある文化を守るためにできることを考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	情報 美術 地理
１０月	Lesson 6	12	パリの地下鉄ミュージシャンについての雑誌記事を読み、概要や要点を読み取る。 関係副詞（where・when・why）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	意見交換や情報交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	音楽 公共 地理
	Challenge 6	3	ストリートピアノについて学び、その意義を考える。	発表	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[発表]）	音楽 公共
１１月	Lesson 7	12	三代達也さんの体験談を読み、バリアフリーな共生社会を実現するうえで大切なことは何かを考える。 現在分詞・過去分詞の形容詞的用法/分詞構文/It is that /）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	ディスカッション	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	地理 公共 保健体育
	Challenge7	3	「やさしい日本語」について読み取り、それを活用するために大切なことについて考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	国語 公共
１２月	Lesson 8	12	古代から現代までの鍵の進化についての新聞を読み、その背景や今後のさらなる進化について考える。 条件を表すif節 / 仮定法過去/ I wish / as if について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	やり取り	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	地理
1月	Challenge 8	3	ニューヨーク連邦準備銀行の金庫について、概要を聞き取り、あったらよいと思う未来の「鍵」について考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	地理 公共
	Lesson 9	12	角野栄子さんの作品などについて学び、自分の生き方について考える。 S＋V＋O＋O（O2＝how to～）/SVO ＋to不定詞/ SVOC(C＝動詞の原形・現在分詞）について理解を深め、これらを適切に活用することができる。	発表	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[発表]）	国語
2月	Challenge 9	3	『マジック・ツリー・ハウス』シリーズの特徴や作者について学び、創造力を身につけ、活用するためにはどのような経験が大切なのかを考える。	意見交換	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[やり取り]）	国語 歴史
	Lesson　10	12	SDGsに関する問題と解決策の事例を学び、自らが取り組める行動について具体的に考える。	プレゼンテーション	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（スピーキング[発表]）	公共 家庭
3月	Reading	5	異なる生活を好む２匹のネズミの物語を鑑賞し、幸福に対する価値観の違いについて考える。	ライティング	・活動の観察 ・課題などの提出状況 ・評価問題（定期試験、課題テスト） ・パフォーマンス評価（ライティング）	公共
指導時間数の計		140				

茨城県立多賀学校　年間指導計画　（外国語科）

学校番号　6

学校の教育目標	（1） 校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校 （2） 授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校 （3） 特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「市民性」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

教科の目標	○現代社会に関するトピックについて英語で理解することが出来る。（知識及び技能） ○現代社会に関するトピックについて主体的に考え、それらを英語で論理的に説明できる。（思考力、判断力、表現力等） ○多様化する社会に関心を持ち、常に自らの生き方を探究することができる。（学びに向かう力、人間性等）

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
論理・表現Ⅰ	2	全日制・普通科・1学年	（revised） Big Dipper English Logic and Expression Ⅰ（数研出版）

CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標	【聞くこと】　：自分自身や身の回りのこと、日常生活のことなど、身近なトピックについての簡潔な説明を理解できる。 【読むこと】　：平易な表現を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの説明文を理解できる。 【発表】　自分に直接関わりのある話題について，補助的な手段を用いながら基礎的な表現を用い説明できる。 【やりとり】　身近な話題について聞いた内容に関して，質問をしたり適切に答えたりできる。 【書くこと】　自分の身の回りの出来事や趣味などについて，個人的経験に基づいて，短い文章を書ける。（2～3文，50words程度）☒

時期 月 週 日	単元・題材名	指導時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質･能力の育成に関わる他教科等との関連
4月2週～4月3週	**Part 1** Lesson 1 Lesson 2 Lesson 3	4	・主語＋動詞の英語の用法の理解をもとに，自分や身の回りのことについて紹介することができる。 ・自分や身の回りのことについて，聞いたり読んだりしたことを活用しながら，自分の考えを聞き手にわかりやすく伝える姿勢がみられる。	・誰が　何をするか　をはっきりさせる。自分や友だちの興味・関心について紹介する。 ・よく使う動詞の活用を使って、自分や身の回りのことについて考えを書く。	・活動の観察 ・課題の提出状況 ・評価問題	国語
4月4週～5月2週	**Part 1** Lesson 4 Lesson 5 Lesson 6	4	・現在形・過去形・現在・過去進行形及び未来形を適切に用いて会話したり、最近したことについて説明することができる。 ・未来・現在・過去の表現を用いて，したことを正しく書くことができる。	・休日・週末に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・休日・週末に関する文章を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと） ・評価問題	国語
5月3週～5月4週	**Part 1** Lesson 7　辞書を活用しよう Lesson 8 Lesson 9	4	・現在完了・過去完了及び助動詞の表現を適切に用いて会話したり、完了したことや経験したこと，継続的にしていることについて説明することができる。 ・現在完了形を正しく用いて，完了したことやその結果について書くことができる。	・過去から現在に関する完了形を用いた会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・予定に関する文章を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（やりとり）） ・評価問題	国語
6月1週～6月2週	**Part 1** Lesson 10 Lesson 11 Express it logically 1	4	５文型を適切に用いて，会話したり、受動態を適切に用いて、だれに・何にされたのか，いつ・どこに～されるか，何かによって引き起こされる喜びや驚きについて話すことができる。 ・受動態〈be＋過去分詞〉を用いて英文を正しく書くことができる。	・旅行・体験に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・旅行・体験に関する文章を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	地理歴史 国語
6月3週～7月1週	**Part 1** Lesson 12 Lesson 13 Lesson 14	4	・助動詞を適切に用いて会話でき、可能であることやしなければならないこと，依頼したいことについて説明することができる。 ・助動詞can・be able to，mayを用いて，可能であることや許可を与える英文を正しく書くことができる	・規則に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・規則に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと）	公民
7月2週～7月3週	**Part 1**　Lesson 15　Express it logically 2　Lesson 16 Lesson 17	4	・不定詞を適切に用いて会話したり、「～することは…だ」，「何をするか」「何をすべきか」，「～しないこと」といった表現を使用しながら話すことができる。 ・不定詞（名詞用法）を用いて正しく書くことができる	・ある出来事に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・ある出来事に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（やりとり）） ・評価問題	国語
9月1週～9月2週	**Part 1** Lesson 18 Lesson 19 Express it logically 3	4	・関係代名詞を適切に用いて会話したり、どういう人・ものかについて話すことができる。 ・関係代名詞（主格）を用いてある人・ものがどういう人で，どういうものなのかということを正しく書くことができる。	・日本のものに関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・日本のものに関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	地理歴史 家庭
9月3週～9月4週	**Part 1** Lesson 20 Lesson 21 Express it logically 4	4	・仮定法を適切に用いて会話したり、事実と異なることを仮定して話すことができる。 ・仮定法過去を用いて現実とは違う想像の話について書くことができる。	・将来の夢に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・将来の夢に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと） ・評価問題	国語

10月1週～10月2週	**Part 2** Lesson 1 Lesson 2	4	・勧誘・提案する。Would you/Let's/Shall we/Why don't we/How aboutを適切に用いて会話したり、勧誘したり、あることについての提案したり，相手に話しかけができる。 ・勧誘・提案の表現を用いてあるものや事の説明を正しく書くことができる。	・健康に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・健康に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（やりとり）） ・評価問題	保健体育 家庭 国語
10月3週～10月4週	**Part 2** Lesson 3 Lesson 4	4	・使役動詞・知覚動詞を適切に用いて会話したり、誰かにしてほしいことや誰かにしてもらいたいこと,一部始終を見たり聞いたりするという状況について話すことができる。 ・使役動詞・知覚動詞を用いて，許可,依頼などの意味を表す英文や、知覚に関する英文を正しく書くことができる。	・テクノロジーに関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・テクノロジーに関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表））	情報 国語
11月1週～11月2週	**Part 2** Express it logically 5	4	・動名詞を適切に用いて会話したり、実際にしていることについて話すことができる。動名詞（主語・補語）を用いて実際にしていることやしたことがあることについての説明を正しく書くことができる。	・趣味・楽しみに関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・趣味・楽しみに関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと）	国語
11月3週～11月4週	**Part 2** Lesson 5 Lesson 6	4	・分詞を適切に用いて会話したり、あるもの・ことによって引き起こされた驚き・喜びについてや，あるひと（もの）・ことがどのような状態のままであるかについて話すことができる。 ・分詞（限定用法）を用いてあるもの・ことに情報を加える説明を正しく書くことができる。	・珍しい体験に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・珍しい体験に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	地理歴史 理科
12月1週～12月2週	**Part 2** Lesson 7 Lesson 8	4	・使役動詞・分詞構文を適切に用いて会話したり、してもらったことやされたことについて話すことができる。 ・使役動詞・分詞構文を用いて，トラブルについて書くことができる。	・トラブルに関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・トラブルに関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（やりとり）） ・評価問題	国語
12月3週	**Part 2** Express it logically 6	2		・人物紹介に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・人物紹介に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	地理歴史 理科 国語
1月2週～1月3週	**Part 2** Lesson 9 Lesson 10	4	・関係副詞を適切に用いて会話したり、どういう場所なのか，どういう時なのか，またそうである理由について話すことができる。 ・関係副詞〈where〉を用いてある場所がどういう場所なのかを正しく書くことができる。	・場所や時に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・場所や時に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと） ・評価問題	地理歴史 家庭
1月4週～2月1週	**Part 2** Lesson 11 Lesson 12 Express it logically 7	4	・比較級を適切に用いて会話したり、２つのものや人を比べて話すことができる。 ・比較級を用いて，自分が行ってみたい国と日本を比較した文について書くことができる。	・生活環境に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・生活環境に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	理科 地理歴史
2月2週～2月4週	**Part 2** Lesson 13 Lesson 14	4	・最上級を適切に用いて会話したり，いくつかの中で一番なものについて話すことができる。 ・〈the＋最上級〉を用いてある範囲の中での一番なものについて書くことができる。	・社会問題に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・社会問題に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（書くこと） ・評価問題	家庭
3月1週～3月2週	**Part 2** Express it logically 8 Express it logically 9	4		・世界の問題に関する会話を聞いて理解し，質問に答える。 ・世界の問題に関する情報を読んで理解し，文章を書いたり，発表したりする。	・活動の観察 ・パフォーマンステスト（話すこと（発表）） ・評価問題	地理歴史 国語
指導時間数の計		70				